

AX2400S

AX2400S ソフトウェアマニュアル訂正資料 (Ver. 11.5 以降対応版)

■ はじめに

本資料は、AX2400Sソフトウェアマニュアル (Copyright (c)2005, 2011, ALAXALA Networks Corporation. All rights reserved.) の訂正内容について説明するものです。本装置のマニュアルを読む場合は、この資料もあわせてお読み下さい。本資料の対象となるマニュアル一覧を以下に示します。

項番	マニュアル名称	マニュアル番号	発行
1	AX2400S ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションガイド Vol. 1 (Ver. 11.5 対応版)	AX24S-S001-D0	2011 年 1 月
2	AX2400S ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションガイド Vol. 2 (Ver. 11.5 対応版)	AX24S-S002-D0	2011 年 1 月
3	AX2400S ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションコマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版)	AX24S-S003-D0	2011 年 1 月
4	AX2400S ソフトウェアマニュアル 運用コマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版)	AX24S-S004-D0	2011 年 1 月
5	AX2400S ソフトウェアマニュアル メッセージ・ログレファレンス (Ver. 11.5 対応版)	AX24S-S005-D0	2011 年 1 月
6	AX2400S ソフトウェアマニュアル MIB レファレンス (Ver. 11.5 対応版)	AX24S-S006-D0	2011 年 1 月

■ 商標一覧

Ciscoは、米国Cisco Systems, Inc.の米国および他の国々における登録商標です。

Ethernetは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

Internet Explorerは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。

IPXは、Novell, Inc.の商標です。

Microsoftは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Octpowerは、日本電気（株）の登録商標です。

RSA, RSA SecurIDは、RSA Security Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

sFlowは、米国およびその他の国における米国InMon Corp.の登録商標です。

UNIXは、The Open Groupの米国ならびに他の国における登録商標です。

VitalQIP, VitalQIP Registration Manager は、アルカテル・ルーセントの商標です。

VLANaccessClientは、NECソフトの商標です。

VLANaccessController, VLANaccessAgentは、NECの商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

そのほかの記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ ご注意

このマニュアル訂正資料は、改良のため、予告なく変更する場合があります。

■ 発行

2017 年 1 月発行(第 15 版)

■ 著作権

All Rights Reserved, Copyright(C), 2005, 2017, ALAXALA Networks, Corp.

変更履歴

表 【第 15 版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
1. コンフィグレーションガイド Vol.1 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S001-D0)	15.1.5 フレーム送信時のポート振り分け【訂正】
2. コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S002-D0)	5.2.1. レイヤ 2 認証と他機能との共存【訂正】

表 【第 14 版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
5. メッセージ・ログレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S005-D0)	2.5.1 イベント発生部位=PORT【訂正】
6. MIB レファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S006-D0)	2.2.1 interfaces グループ(イーサネットの場合)【訂正】
	2.2.2 interfaces グループ(その他の場合)【訂正】

表 【第 13 版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
4. 運用コマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S004-D0)	[23] traceroute ipv6【訂正】
5. メッセージ・ログレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S005-D0)	2.6.2 イベント発生部位=EQUIPMENT【訂正】

表 【第 12 版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
2. コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S002-D0)	19.1.2 動作仕様【追加】
3. コンフィグレーションコマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S003-D0)	[27] コンフィグレーションコマンドと動作モードの対応【訂正】
	[27] web-authentication ssl connection-timeout【追加】
	[27] web-authentication tcp-retransmission initial-timeout【追加】
	[38] snmp-server host【訂正】
4. 運用コマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S004-D0)	[35] show loop-detection logging【訂正】
5. メッセージ・ログレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S005-D0)	2.3.5 イベント発生部位= VLAN (L2 ループ検知)【訂正】

表 【第 11 版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
1. コンフィグレーションガイド Vol.1 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S001-D0)	19.7.2 ポート間中継遮断機能使用時の注意事項【追加】
2. コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S002-D0)	6.1.1 サポート機能【訂正】

表 【第 10 版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
1. コンフィグレーションガイド Vol.1 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S001-D0)	9.1 時刻の設定と NTP 確認【訂正】
2. コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S002-D0)	26.1.2 ポートミラーリングの注意事項【追加】
3. コンフィグレーションコマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S003-D0)	[39] logging email-server【訂正】
4. 運用コマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S004-D0)	[3] telnet【追加】
	[15] show interfaces【訂正】
	[15] show port【訂正】
	[15] no test interfaces【訂正】
6. MIB レファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S006-D0)	2.2.1 interfaces グループ(イーサネットの場合)【訂正】
	2.10.1 Ethernet Statistics グループ【訂正】
	2.10.3 Ethernet History グループ【訂正】

表 【第 9 版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
1. コンフィグレーションガイド Vol.1 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S001-D0)	3.2.7 冗長化構成による高信頼化【訂正】
	3.2.8 ネットワークの障害検出による高信頼化機能【訂正】
	3.2.9 隣接装置情報の管理 (LLDP/OADP)【訂正】
2. コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S002-D0)	3.4.1 帯域監視【訂正】
4. 運用コマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S004-D0)	3.10.1 CoS 値・キューイング優先度【訂正】
	[23] traceroute ipv6【訂正】
	[32] show gsrp【訂正】

表 【第 8 版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
1. コンフィグレーションガイド Vol.1 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S001-D0)	24.5 IGMP snooping/MLD snooping 使用時の注意事項【訂正】
2. コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S002-D0)	13.1.7 DHCP snooping 使用時の注意事項【訂正】
4. 運用コマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S004-D0)	[8] show tech-support【訂正】
6. MIB レファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S006-D0)	2.15.2 dot3adAggPort グループ【訂正】

表 【第 7 版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
4. 運用コマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S004-D0)	[6] set clock【訂正】

表 【第 6 版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
1. コンフィグレーションガイド Vol.1 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S001-D0)	11.1.1 コンフィグレーション・運用コマンド一覧【訂正】
	15.1.5 フレーム送信時のポート振り分け【訂正】
	18.2.1 コンフィグレーションコマンド一覧【訂正】
2. コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S002-D0)	1.1.7 フィルタ使用時の注意事項【訂正】
	3.1.4 フロー検出使用時の注意事項【追加】
	第4版で追加した「23.1.4 本装置での sFlow 統計の動作について【訂正】」を削除
3. コンフィグレーションコマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S003-D0)	26.1.2 ポートミラーリングの注意事項【追加】
	[7] system temperature-warning-level【訂正】
	[11] mac-address-table static【追加】
	[12] vlan-up-message【追加】
	44.1.9 VLAN 情報【訂正】
4. 運用コマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S004-D0)	44.1.31 ポートミラーリング情報【訂正】
	[8] show system【訂正】
	[8] show environment【訂正】
	[15] show interfaces【訂正】
	[15] activate【訂正】
	[15] inactivate【訂正】
	[15] test interfaces【訂正】【追加】
	[15] no test interfaces【訂正】
	[18] restart vlan【訂正】
	[24] clear ip dhcp binding【訂正】
5. メッセージ・ログレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S005-D0)	[24] restart dhcp【訂正】
	2.4.1 イベント発生部位=SOFTWARE【訂正】
	2.6.2 イベント発生部位=EQUIPMENT【訂正】

表 【第 5 版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
4. 運用コマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S004-D0)	[26] show qos queueing【訂正】
6. MIB レファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S006-D0)	3.1.2 axsQoS グループ【訂正】【追加】
	付録 A.1 プライベート MIB【追加】

表 【第 4 版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
2. コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S002-D0)	5.4.1 本装置の設定および状態変更時の注意【追加】
	9.3.6 その他の画面サンプル【追加】
	23.1.4 本装置での sFlow 統計の動作について【訂正】
4. 運用コマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S004-D0)	[6] set clock【訂正】
	[8] show version【訂正】
	[8] reload【追加】
	[8] restore【追加】
	[12] ppupdate【訂正】【追加】
	[28] set web-authentication html-files【追加】

表 【第3版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
1. コンフィグレーションガイド Vol.1 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S001-D0)	3.2.4 フィルタ・QoS 【訂正】
	17.1.7 注意事項 【訂正】
4. 運用コマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S004-D0)	[28] commit web-authentication 【追加】
	[28] load web-authentication 【追加】
	[29] commit mac-authentication 【追加】
	[29] load mac-authentication 【追加】

表 【第2版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
1. コンフィグレーションガイド Vol.1 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S001-D0)	16.3 レイヤ2 スイッチ機能と他機能の共存について 【訂正】
	21.7 Ring Protocol 使用時の注意事項 【追加】
2. コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S002-D0)	1.1.5 アクセスリスト 【訂正】
	1.1.7 フィルタ使用時の注意事項 【訂正】
	3.1.4 フロー検出使用時の注意事項 【訂正】
	3.10.1 CoS 値・キューイング優先度 【訂正】
	13.1.7 DHCP snooping 使用時の注意事項 【訂正】
	17.1.1 概要 【訂正】
3. コンフィグレーションコマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S003-D0)	[4] aaa accounting commands 【訂正】
	[10] channel-group max-active-port 【追加】
	[23] 指定できる名称 【訂正】 【追加】
	[23] access-list 【訂正】
	[23] ip access-group 【訂正】
	[23] ip access-list extended 【訂正】
	[23] ip access-list standard 【訂正】
	[23] ipv6 access-list 【訂正】
	[23] ipv6 traffic-filter 【訂正】
	[23] mac access-group 【訂正】
	[23] mac access-list extended 【訂正】
	[24] 指定できる名称および値 【追加】
	[24] ip qos-flow-group 【訂正】
	[24] ip qos-flow-list 【訂正】
	[24] ipv6 qos-flow-group 【訂正】
	[24] ipv6 qos-flow-list 【訂正】
	[24] mac qos-flow-group 【訂正】
	[24] mac qos-flow-list 【訂正】
4. 運用コマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S004-D0)	[16] show channel-group 【訂正】
	[17] clear mac-address-table 【追加】
	[22] show netstat(netstat) 【訂正】
	[23] show netstat(netstat) 【訂正】
5. メッセージ・ログレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S005-D0)	2.5.1 イベント発生部位=PORT 【訂正】
6. MIB レファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S006-D0)	4.1 サポートトラップおよび発行契機 【訂正】

目 次

1. コンフィグレーションガイド Vol.1 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S001-D0) の訂正内容	8
2. コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S002-D0) の訂正内容	18
3. コンフィグレーションコマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S003-D0) の訂正内容	29
4. 運用コマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S004-D0) の訂正内容	46
5. メッセージ・ログレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S005-D0) の訂正内容	73
6. MIB レファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S006-D0) の訂正内容	80

1. コンフィグレーションガイド Vol. 1 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S001-D0) の訂正内容

3. 収容条件 (P17~P42)

(1) 3.2.4 フィルタ・QoS 【訂正】

「表 3-45 TCP/UDP ポート番号検出パターンの使用例 (P35~P36)」を訂正します。

【訂正内容】

表 3-45 TCP/UDP ポート番号検出パターンの使用例		追加
パターンの使用例※	使用するパターン数	show system 表示 (Resource (Used/Max) の Used の値)
フィルタエントリで ・送信元ポート番号の範囲指定(10~30) フィルタエントリで ・送信元ポート番号の範囲指定(10~40)	二つのエントリでは指定している範囲が異なるため、 ・送信元ポート番号の範囲指定(10~30) ・送信元ポート番号の範囲指定(10~40) の 2 パターンを使用します。	2
フィルタエントリで ・送信元ポート番号の単一指定(10) ・宛先ポート番号の単一指定(10)	宛先ポート番号の単一指定はパターン使用の対象外であるため、 ・送信元ポート番号の単一指定(10) の 1 パターンを使用します。	1
フィルタエントリで ・送信元ポート番号の指定なし ・宛先ポート番号の範囲指定(10~20) フィルタエントリで ・送信元ポート番号の指定なし ・宛先ポート番号の範囲指定(10~20) QoS エントリで ・送信元ポート番号の指定なし ・宛先ポート番号の範囲指定(10~20)	上記 1 の共有する場合の例です。 三つのエントリがありますが、どれも宛先ポート番号の範囲指定(10~20) で同じ範囲を指定しているのでパターンを共有します。 ・宛先ポート番号の範囲指定(10~20) の 1 パターンを使用します。	1
QoS エントリで ・TCP を指定 ・送信元ポート番号の単一指定(10) ・宛先ポート番号の指定なし QoS エントリで ・UDP を指定 ・送信元ポート番号の単一指定(10) ・宛先ポート番号の指定なし	上記 2 の共有する場合の例です。 二つのエントリがありますが、どちらも送信元ポート番号の単一指定(10) で同じ値を指定しているのでパターンを共有します。 ・送信元ポート番号の単一指定(10) の 1 パターンを使用します。	1
QoS エントリで ・送信元ポート番号の範囲指定(10~20) ・宛先ポート番号の範囲指定(10~20)	上記 3 の共有しない場合の例です。 指定した範囲が同じでも送信元と宛先ではパターンを共有しません。 ・送信元ポート番号の範囲指定(10~20) ・宛先ポート番号の範囲指定(10~20) の 2 パターンを使用します。	2

注※ () 内は単一指定したときの値、または範囲指定したときの範囲です。

(2) 3.2.7 冗長化構成による高信頼化【訂正】

「表 3-56 アップリンク・リダンダント収容条件 (P39)」を訂正します。

【訂正内容】

表 3-56 アップリンク・リダンダント収容条件

モデル	アップリンクポート数	アップリンクポート当たりの 収容インタフェース数
全モデル共通	25* ← 訂正	2

追加 { 注※
チャネルグループの場合は、チャネルグループ単位で 1 ポートと数えます。

(3) 3.2.8 ネットワークの障害検出による高信頼化機能【訂正】

「表 3-59 L2 ループ検知フレーム送信レート (P40)」を訂正します。

【訂正内容】

表 3-59 L2 ループ検知フレーム送信レート

モデル	L2 ループ検知フレームの送信レート（装置当たり）※ ¹	
	スパニングツリー, GSRP, Ring Protocol のどれかを使用している場合	スパニングツリー, GSRP, Ring Protocol のどれも使用していない場合
全モデル共通	30pps（推奨値）※ ²	200pps（最大値）※ ³

・ L2 ループ検知フレーム送信レート算出式

L2 ループ検知フレーム送信対象の VLAN ポート数※⁴ ÷ L2 ループ検知フレームの送信レート (pps)
≤ 送信間隔 (秒)

訂正

注※1

送信レートは上記の条件式に従って、自動的に 200pps 以内で変動します。

注※2

スパニングツリー, GSRP, Ring Protocol のどれかを使用している場合は、30pps 以下に設定してください。30pps より大きい場合、スパニングツリー, GSRP, Ring Protocol の正常動作を保障できません。

注※3

200pps を超えるフレームは送信しません。送信できなかったフレームに該当するポートや VLAN ではループ障害を検知できなくなります。必ず 200pps 以下に設定してください。

追加 { 注※4
チャネルグループの場合は、チャネルグループ単位で 1 ポートと数えます。

(4) 3. 2. 9 隣接装置情報の管理 (LLDP/OADP) 【訂正】

「表 3-64 隣接装置情報 (LLDP/OADP) の収容条件 (P42)」を訂正します。

【訂正内容】

表 3-64 隣接装置情報 (LLDP/OADP) の収容条件

項目	最大収容数
LLDP 隣接装置情報	52
OADP 隣接装置情報	100※ ← 訂正

追加

注※

チャネルグループの場合は、チャネルグループ単位で 1 と数えます。

9. 時刻の設定と NTP (P121~P125)

(1) 9. 1 時刻の設定と NTP 確認 【訂正】

「9. 1 時刻の設定と NTP 確認 (P122)」を訂正します。[Ver. 11. 7. G 以降]

【訂正前】

時刻は、本装置の初期導入時に設定してください。時刻は、本装置のログ情報や各種ファイルの作成時刻などに付与される情報です。運用開始時には正確な時刻を本装置に設定してください。運用コマンド `set clock` で時刻を設定できます。

また、このほかに、NTP プロトコルを使用して、ネットワーク上の NTP サーバと時刻の同期を行います。

なお、本装置は RFC1305 NTP バージョン 3 に準拠しています。

【訂正後】

時刻は、本装置の初期導入時に設定してください。時刻は、本装置のログ情報や各種ファイルの作成時刻などに付与される情報です。運用開始時には正確な時刻を本装置に設定してください。運用コマンド `set clock` で時刻を設定できます。

また、このほかに、NTP プロトコルを使用して、ネットワーク上の NTP サーバと時刻の同期を行います。

本装置は RFC1305 NTP バージョン 3 に準拠しています。

なお、本装置は NTP モード 6 およびモード 7 のパケットには応答しません。

11. 装置の管理 (P131~P139)

(1) 11. 1. 1 コンフィグレーション・運用コマンド一覧【訂正】

「表 11-1 コンフィグレーションコマンド一覧 (P132)」を訂正します。

【訂正内容】

表 11-1 コンフィグレーションコマンド一覧

コマンド名	説明
system fan mode	装置 FAN の運転モードを設定します。
system l2-table mode	レイヤ 2 ハードウェアテーブルの検索方式を設定します。
system recovery	no system recovery コマンドを設定すると、装置の障害が発生した際に、障害部位の復旧処理を行わないようにし、障害発生以降に障害部位を停止したままにします。
system temperature-warning-level	装置の入気温度が指定温度以上になった場合に運用メッセージを出力します。←訂正

15. リンクアグリゲーション (P187~P205)

(1) 15. 1. 5 フレーム送信時のポート振り分け【訂正】

「表 15-2 フレーム送信時のポート振り分け (1/2) および表 15-3 フレーム送信時のポート振り分け (2/2) (P189~P191)」を訂正します。[Ver. 11. 7. C 以降]

「表 15-2 フレーム送信時のポート振り分け (1/2) および表 15-3 フレーム送信時のポート振り分け (2/2) (P189~P191)」に追加します。

【訂正内容】

表 15-2 フレーム送信時のポート振り分け (1/2)

中継	フレームの種類	振り分けに使用する情報	port-channel load-balance パラメータ				
			src-mac	dst-mac	src-dst-mac	src-ip	src-port
：	：	：	：	：	：	：	：
レイヤ 3 中継	IP ユニキャスト IP ブロード キャスト	宛先 MAC アドレス	—	○	○	—	—
		送信元 MAC アドレス	○	—	○	—	—
		受信 VLAN	○	○	○	—	—
		追加 → イーサタイプ	○	○	○	—	—
		宛先 IP アドレス	—	—	—	—	—
		送信元 IP アドレス	—	—	—	○	○
		宛先 TCP/UDP ポート 番号	—	—	—	—	—
		送信元 TCP/UDP ポー ト番号	—	—	—	—	○
	IP マルチキャスト	宛先 IP アドレス	○	○	○	○	○
		送信元 IP アドレス	○	○	○	○	○
		受信ポート番号また は受信チャンネルグル ープ番号	○	○	○	○	○
：	：	：	：	：	：	：	：
レイヤ 2 中継	MAC アドレス未 学習フレーム	宛先 MAC アドレス	○	○	○	○	○
		送信元 MAC アドレス	○	○	○	○	○
		受信ポート番号 または受信チャンネル グループ番号	○	○	○	○	○
	MAC アドレス学 習済の IP フレーム	宛先 MAC アドレス	—	○	○	—	—
		送信元 MAC アドレス	○	—	○	—	—
		VLAN	○	○	○	—	—
		追加 → イーサタイプ	○	○	○	—	—
		宛先 IP アドレス	—	—	—	—	—
		送信元 IP アドレス	—	—	—	○	○
		宛先 TCP/UDP ポート 番号	—	—	—	—	—
		送信元 TCP/UDP ポー ト番号	—	—	—	—	○
	：	：	：	：	：	：	：

表 15-3 フレーム送信時のポート振り分け (2/2)

中継	フレームの種類	振り分けに使用する情報	port-channel load-balance パラメータ			
			dst-ip	dst-port	src-dst-ip	src-dst-port
:	:	:	:	:	:	:
レイヤ 3 中継	IP ユニキャスト IP ブロードキャスト	宛先 MAC アドレス	—	—	—	—
		送信元 MAC アドレス	—	—	—	—
		受信 VLAN	—	—	—	—
		追加 → イーサタイプ	—	—	—	—
		宛先 IP アドレス	○	○	○	○
		送信元 IP アドレス	—	—	○	○
		宛先 TCP/UDP ポート番号	—	○	—	○
		送信元 TCP/UDP ポート番号	—	—	—	○
	IP マルチキャスト	宛先 IP アドレス	○	○	○	○
		送信元 IP アドレス	○	○	○	○
		受信ポート番号または受信チャンネルグループ番号	○	○	○	○
レイヤ 2 中継	MAC アドレス未学習フレーム (ユニキャスト/ブロードキャスト/マルチキャスト)	宛先 MAC アドレス	○	○	○	○
		送信元 MAC アドレス	○	○	○	○
		受信ポート番号または受信チャンネルグループ番号	○	○	○	○
	MAC アドレス学習済の IP フレーム	宛先 MAC アドレス	—	—	—	—
		送信元 MAC アドレス	—	—	—	—
		VLAN	—	—	—	—
		追加 → イーサタイプ	—	—	—	—
		宛先 IP アドレス	○	○	○	○
		送信元 IP アドレス	—	—	○	○
		宛先 TCP/UDP ポート番号	—	○	—	○
		送信元 TCP/UDP ポート番号	—	—	—	○
	MAC アドレス学習済の非 IP フレーム	宛先 MAC アドレス	○	○	○	○
		送信元 MAC アドレス	—	—	○	○
		VLAN	○	○	○	○
		イーサタイプ	○	○	○	○
:	:	:	:	:	:	:

16. レイヤ 2 スイッチ概説 (P207～P212)

(1) 16.3 レイヤ 2 スイッチ機能と他機能の共存について【訂正】

「表 16-2 VLAN での制限事項 (P210～P211)」を訂正します。

【訂正内容】

表 16-2 VLAN での制限事項

使用したい機能	制限のある機能	制限の内容
：	：	：
VLAN 拡張機能	Tag 変換機能	VLAN トンネリング
		PVST+
		IGMP snooping
		MLD snooping
		アップリンク・リダンダント
	VLAN トンネリング	ポート VLAN
		プロトコル VLAN
		MAC VLAN
		Tag 変換機能
		PVST+
		シングルスパニングツリー
		マルチプルスパニングツリー
		IGMP snooping
		MLD snooping
		レイヤ 2 認証
		DHCP snooping
		アップリンク・リダンダント
	L2 プロトコルフレーム透過機能(BPDU)	PVST+
		シングルスパニングツリー
		MSTP
	L2 プロトコルフレーム透過機能(EAP)	レイヤ 2 認証
	ポート間中継遮断機能	DHCP snooping

追加 →

17. MAC アドレス学習 (P213～P221)

(1) 17. 1. 7 注意事項【訂正】

「(3)ユニキャスト通信の制限 (P217)」を訂正します。

【訂正前】

(3) ユニキャスト通信の制限

収容するイーサネットインタフェース数が 48 ポート以上のモデルで、ポート 1～24 および 49～50 に接続されている端末同士がユニキャスト通信を行っている場合、そのどちらかの端末に対しポート 25～48 に接続されている端末からユニキャスト通信を行うと、VLAN 内の一部にフラッドイングされることがあります。

この現象が発生した場合、宛先としている端末からマルチキャストまたはブロードキャストが送信されるか、双方向通信をすると解消されます。

【訂正後】

(3) ユニキャスト通信の制限

収容するイーサネットインタフェース数が 48 ポート以上のモデルで、次の場合のユニキャスト通信を行うと VLAN 内の一部にフラッドイングされることがあります。

- ・ポート1～24および49～50に接続されている端末同士がユニキャスト通信を行い、そのどちらかの端末に対しポート25～48に接続されている端末からユニキャスト通信を行った場合
- ・ポート25～48に接続されている端末同士がユニキャスト通信を行い、そのどちらかの端末に対しポート1～24および49～50に接続されている端末からユニキャスト通信を行った場合
- ・ポート1～24および49～50とポート25～48でリンクアグリゲーションを構成し、その先に接続されている端末とポート1～50に接続されている端末が双方向通信を行った場合

この現象が発生した場合、宛先としている端末からマルチキャストまたはブロードキャストが送信されると解消されます。

18. VLAN (P223～P258)

(1) 18.2.1 コンフィグレーションコマンド一覧【訂正】

「表 18-6 コンフィグレーションコマンド一覧 (P230)」を訂正します。[Ver. 11.7.C 以降]

【訂正内容】

表 18-6 コンフィグレーションコマンド一覧

コマンド名	説明
name	VLAN の名称を設定します。
state	VLAN の状態(停止/開始)を設定します。
switchport access	アクセスポートの VLAN を設定します。
switchport dot1q ethertype	ポートごとに VLAN Tag の TPID を設定します。
switchport mode	ポートの種類 (アクセス, プロトコル, MAC, トランク, トンネリング) を設定します。
switchport trunk	トランクポートの VLAN を設定します。
vlan	VLAN を作成します。また, VLAN コンフィグレーションモードで VLAN に関する項目を設定します。
vlan-dot1q-ethertype	VLAN Tag の TPID のデフォルト値を設定します。
追加 { vlan-up-message	no vlan-up-message コマンドにより VLAN の UP および DOWN 時の運用ログメッセージおよび LinkUP/LinkDown トラップの発行を抑止します。

19. VLAN 拡張機能 (P259～P275)

(1) 19.7.2 ポート間中継遮断機能使用時の注意事項【追加】

「(3) ポート間中継遮断機能で遮断されないフレームについて (P269)」を追加します。

【追加】

(3) ポート間中継遮断機能で遮断されないフレームについて

ポート間中継遮断機能では, ハードウェアで中継するフレームだけを遮断します。ソフトウェアで送信するフレーム (自発, IP オプション付きパケットなど) は遮断しません。

21. Ring Protocol の解説 (P331～P376)

(1) 21. 7 Ring Protocol 使用時の注意事項【追加】

「(20) リングポートに指定したリンクアグリゲーションのダウンについて (P376)」を追加します。[Ver. 11.6 以降]

【追加】

(20) リングポートに指定したリンクアグリゲーションのダウンについて

リングネットワークを構成するノード間をリンクアグリゲーション(スタティックモードまたは LACP モード) で接続していた場合、リンクアグリゲーションの該当チャネルグループを shutdown コマンドでダウン状態にするときは、あらかじめチャネルグループに属するすべての物理ポートを shutdown コマンドでダウン状態に設定してください。

なお、該当チャネルグループを no shutdown コマンドでアップ状態にするときは、あらかじめチャネルグループに属するすべての物理ポートを shutdown コマンドでダウン状態に設定してください。

24. IGMP snooping/MLD snooping の解説 (P421～P435)

(1) 24. 5 IGMP snooping/MLD snooping 使用時の注意事項【訂正】

「(8)QoS との共存 (P435)」を訂正します。

【訂正前】

(8) QoS との共存

IGMP snooping/MLD snooping と QoS(受信側)は、同一 VLAN 内で共存できません。

【訂正後】

(8) QoS との共存

IGMP snooping/MLD snooping と QoS(受信側)は、同一 VLAN 内で共存できません。

QoS との同時動作については、「コンフィグレーションガイド Vol.2 3.1.4 フロー検出使用時の注意事項(5)ほかの機能との同時動作」を参照してください。

2. コンフィグレーションガイド Vol. 2 (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S002-D0) の訂正内容

1. フィルタ (P1~P17)

(1) 1.1.5 アクセスリスト【訂正】

「(2)廃棄できないフレーム (P10)」を訂正します。

【訂正内容】

次に示すフレームは、フィルタの有無にかかわらず、フレームを廃棄できません。

本装置が受信するフレームのうち次のフレーム

- ARP フレーム
- 回線テストに使用するフレーム

訂正 → • 自装置宛ての MAC アドレス学習の移動検出とみなしたフレーム

(2) 1.1.7 フィルタ使用時の注意事項【訂正】

「(4)フィルタエントリ適用時の動作 (P11)」を訂正します。

【訂正前】

(4) フィルタエントリ適用時の動作

本装置では、インタフェースに対してフィルタを適用する※と、暗黙の廃棄エントリから適用します。そのため、ユーザが設定したフィルタエントリが適用されるまでの間、暗黙の廃棄に一致するフレームが一時的に廃棄されます。また、暗黙の廃棄エントリの統計情報が採られます。

注※

- 1 エントリ以上を設定したアクセスリストをアクセスグループコマンドによりインタフェースに適用する場合
- アクセスリストをアクセスグループコマンドにより適用し、ひとつ目のエントリを追加する場合

【訂正後】

(4) フィルタエントリ適用時の動作

本装置では、インタフェースに対してフィルタを適用する※と、設定したフィルタエントリが適用されるまでの間、暗黙の廃棄を含むほかのフィルタエントリで検出される場合があります。その場合、検出した暗黙の廃棄を含むフィルタエントリの統計情報が採られます。

注※

- 1 エントリ以上を設定したアクセスリストをアクセスグループコマンドによりインタフェースに適用する場合
- アクセスリストをアクセスグループコマンドにより適用し、エントリを追加する場合
- 装置起動時、運用コマンド copy または restart vlan 実行時にフィルタエントリを適用する場合

「(6)ほかの機能との同時動作 (P11)」を訂正します。

【訂正内容】

(6) ほかの機能との同時動作

以下の場合フレームは廃棄しますが、インタフェースに対してフィルタエントリを設定し一致した場合、一致したフィルタエントリの統計情報が採られます。

- ・ VLAN のポートのデータ転送状態が **Blocking** (データ転送停止中) の状態で、該当ポートからフレームを受信した場合

削除

- ・ プロトコル VLAN ・ MAC VLAN で、VLAN-Tag 付きフレームを受信した場合

- ・ ポート間中継遮断機能で指定したポートからフレームを受信した場合
- ・ ネイティブ VLAN をトランクポートで送受信する VLAN に設定しないで、VLAN-Tag なしフレームを受信した場合
- ・ トランクポートで送受信する VLAN に設定していない VLAN-Tag 付きフレームを受信した場合

訂正

- ・ アクセスポート、プロトコルポートおよび MAC ポートで VLAN-Tag 付きフレームを受信した場合

削除

- ・ 廃棄動作を指定したフィルタエントリ (暗黙の廃棄のエントリを含む) に一致するフレームを受信した場合
- ・ DHCP snooping の端末フィルタによってフレームが廃棄された場合
- ・ 認証専用 IPv4 アクセスリストによってフレームが廃棄された場合

追加

- ・ MAC アドレス学習機能によってフレームが廃棄された場合
- ・ レイヤ 2 認証によってフレームが廃棄された場合
- ・ レイヤ 2 プロトコルが無効なためフレームが廃棄された場合
- ・ IGMP snooping および MLD snooping によってフレームが廃棄された場合
- ・ DHCP snooping によってフレームが廃棄された場合
- ・ QoS 制御によってフレームが廃棄された場合
- ・ ストームコントロールによってフレームが廃棄された場合

3. フロー制御 (P27~P60)

(1) 3. 1. 4 フロー検出使用時の注意事項【追加】【訂正】

「(4)QoS エントリ適用時の動作 (P36)」を追加します。

【追加】

(4) QoSエントリ適用時の動作

本装置では、インタフェースに対して QoS エントリを適用する※と、設定した QoS エントリが適用されるまでの間、ほかの QoS エントリで検出される場合があります。その場合、検出した QoS エントリの統計情報が採られます。

注※

- ・ 1 エントリ以上を設定した QoS フローリストを QoS フローグループコマンドによりインタフェースに適用する場合
- ・ QoS フローリストを QoS フローグループコマンドにより適用し、エントリを追加する場合
- ・ 装置起動時、運用コマンド copy または restart vlan 実行時に QoS エントリを適用する場合

「(5)ほかの機能との同時動作 (P36)」を訂正します。

【訂正内容】

(5) ほかの機能との同時動作

以下の場合フレームは廃棄しますが、インタフェースに対して QoS エントリを設定し一致した場合、一致した QoS エントリの統計情報が採られます。

- ・ VLAN のポートのデータ転送状態が **Blocking** (データ転送停止中) の状態で、該当ポートからフレームを受信した場合

- | | |
|----|--|
| 削除 | <ul style="list-style-type: none"> ・ プロトコル VLAN ・ MAC VLAN で、VLAN-Tag 付きフレームを受信した場合 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ ポート間中継遮断機能で指定したポートからフレームを受信した場合 ・ ネイティブ VLAN をトランクポートで送受信する VLAN に設定しないで、VLAN-Tag なしフレームを受信した場合 ・ トランクポートで送受信する VLAN に設定していない VLAN-Tag 付きフレームを受信した場合 |
| 訂正 | <ul style="list-style-type: none"> ・ アクセスポート、プロトコルポートおよび MAC ポートで VLAN-Tag 付きフレームを受信した場合 ・ 廃棄動作を指定したフィルタエントリ (暗黙の廃棄のエントリを含む) に一致するフレームを受信した場合 |
| 追加 | <ul style="list-style-type: none"> ・ MAC アドレス学習機能によってフレームが廃棄された場合 ・ MAC 認証によってフレームが廃棄された場合 ・ 認証専用 IPv4 アクセスリストが設定されているインタフェース、または端末検出動作切り替えオプションが auto のインタフェースで、IEEE802.1X によってフレームが廃棄された場合 ・ ストームコントロールによってフレームが廃棄された場合 |

インタフェースに対して QoS エントリを設定しフレームが一致した場合、次の動作は無効になります。

- | | |
|----|---|
| 削除 | <ul style="list-style-type: none"> ・ DHCP snooping の端末フィルタによるフレーム廃棄 |
| 訂正 | <ul style="list-style-type: none"> ・ Web 認証, IEEE802.1X および認証専用 IPv4 アクセスリストによるフレーム廃棄 |
| 追加 | <ul style="list-style-type: none"> ・ レイヤ 2 プロトコル無効によるフレーム廃棄 ・ IGMP snooping および MLD snooping によるフレーム廃棄 ・ DHCP snooping によるフレーム廃棄 |

(2) 3. 4. 1 帯域監視【訂正】

「表 3-8 の後の説明文（P41）」を訂正します。

【訂正前】

次のフレームについては、キューイング優先度変更および DSCP 書き換えのペナルティが動作しません。

- ・ MTU を超える IPv4, IPv6 パケット
- ・ TTL が 1 のフレーム
- ・ ホップリミットが 1 のフレーム
- ・ IP オプション付きのフレーム
- ・ IPv6 拡張ヘッダ付きのフレーム
- ・ 宛先不明の IPv4, IPv6 パケット

【訂正後】

次のフレームについては、DSCP 書き換えのペナルティが動作しません。

- ・ MTU を超える IPv4, IPv6 パケット
- ・ TTL が 1 のフレーム
- ・ ホップリミットが 1 のフレーム
- ・ IP オプション付きのフレーム
- ・ IPv6 拡張ヘッダ付きのフレーム
- ・ 宛先不明の IPv4, IPv6 パケット

(3) 3. 10. 1 CoS 値・キューイング優先度【訂正】

「表 3-15 優先度決定で変更できないフレーム一覧（P56）」を訂正します。

【訂正内容】

表 3-15 優先度決定で変更できないフレーム一覧

フレーム種別		CoS 値	キューイング優先度
本装置が自発的に送信するフレーム		7	3
本装置が受信するフレームのうち次のフレーム		5※1	—
• ARP フレーム			
• 回線テストに使用するフレーム		2※1	—
本装置が受信するフレームのうち次のフレーム			
• 自装置宛ての MAC アドレス学習の移動検出とみなしたフレーム			

訂正

追加

(凡例) —：フロー制御の優先度決定にて変更可能

注※1 優先度決定にて固定の CoS 値より大きい値を指定した場合、優先度決定の値に従います

5. レイヤ2 認証 (P73～P99)

(1) 5.2.1 レイヤ2 認証と他機能との共存【訂正】

「表 5-4 他機能との共存仕様 (P76)」を訂正します。[Ver. 11.1 以降]

【訂正内容】

表 5-4 他機能との共存仕様

レイヤ 2 認証機能	機能名		共存仕様
IEEE802.1X	リンクアグリゲーション		LACP リンクアグリゲーションのチャネルグループと同時に設定しないでください。
	VLAN	ポート VLAN	ポート単位認証および VLAN 単位認証（静的）で使用できます。
		プロトコル VLAN	装置で同時に使用できません。
		MAC VLAN	VLAN 単位認証（動的）で使用できます。
	デフォルト VLAN		ポート単位認証および VLAN 単位認証（静的）で使用できます。 VLAN 単位認証（動的）では認証前 VLAN に使用できます。
	VLAN 拡張機能	VLAN トンネリング	装置で同時に使用できません。
		EAPOL フォワーディング	装置で同時に使用できません。
	スパニングツリー		スパニングツリーを設定したポートには、ポート単位認証または VLAN 単位認証（静的）を設定しないでください。
	Ring Protocol		Ring Protocol を設定したリングポートには、ポート単位認証または VLAN 単位認証（静的）を設定しないでください。
	IGMP snooping		ポート単位認証または VLAN 単位認証（静的）と同時に設定しないでください。 また、VLAN 単位認証（動的）の場合、同じ VLAN を設定しないでください。
	認証 VLAN		装置で同時に使用できません。
	GSRP		装置で同時に使用できません。
	アップリンク・リダンダント		アップリンクポートで使用できません。
IEEE802.3ah/UDLD		ポート単位認証または VLAN 単位認証（静的）で設定されたポートでは使用しないでください。	
OADP, CDP		透過できません。	

(2) 5.4.1 本装置の設定および状態変更時の注意【追加】

「注意事項（P96）」を追加します。[Ver. 11.7 以降]

【追加】

(2) 認証モードの変更を行う場合の注意

Web 認証が起動（コンフィグレーションコマンド `web-authentication system-auth-control` が設定済み）している状態で認証モードを変更する際、または MAC 認証が起動（コンフィグレーションコマンド `mac-authentication system-auth-control` が設定済み）している状態で認証モードを変更する際は、全ての認証対象ポートに対してコンフィグレーションコマンド `shutdown` を投入して認証端末が接続されていない状態にした後、約 60 秒の間隔を空けてから認証モードの変更を行ってください。認証モードの変更後、全ての認証対象ポートに対してコンフィグレーションコマンド `no shutdown` を投入してください。

認証端末が接続されている状態で認証モードを変更した場合は、運用コマンド `restart web-authentication` または `restart mac-authentication` を実行し、Web 認証プログラムまたは MAC 認証プログラムを再起動してください。

(3) MAC VLAN 設定と認証ポート設定における注意事項

Web 認証・ダイナミック VLAN モード、MAC 認証・ダイナミック VLAN モードおよび IEEE802.1X・VLAN 単位認証（動的）で設定されている認証ポート数と、コンフィグレーションコマンド `vlan <vlan id list> mac-based` の設定数との積算値が約 1600 を超えている場合に次の操作を行うと、MAC 管理プログラムの初期設定時間に伴って、認証が開始されるまで、および認証済み端末の通信が回復するまでに時間がかかります。

[操作]

- ・装置立ち上げ
- ・`reload` コマンド実行
- ・`copy` コマンド実行
- ・`restart vlan` コマンド実行
- ・`restart vlan mac-manager` コマンド実行

6. IEEE802.1X の解説 (P101～P121)

(1) 6.1.1 サポート機能【訂正】

「表 6-6 サポートする認証アルゴリズム (P105～P106)」を訂正します。[Ver. 11.7.H 以降]

【訂正内容】

表 6-6 サポートする認証アルゴリズム

認証アルゴリズム概要	認証アルゴリズム概要
EAP-MD5-Challenge	UserPassword とチャレンジ値の比較を行う。
EAP-TLS	証明書発行機構を使用した認証方式。
EAP-PEAP	EAP-TLS トンネル上で、ほかの EAP 認証アルゴリズムを用いて認証する。 2 種類の認証方式に対応
	(1) PEAP-MS-CHAP V2 : パスワードベースの資格情報を使用した認証方式 (2) PEAP-TLS : 証明書発行機構を使用した認証方式
EAP-TTLS	EAP-TLS トンネル上で、他方式(EAP, PAP, CHAP など) の認証アルゴリズムを用いて認証する。

9. Web 認証の設定と運用 (P175～P226)

(1) 9.3.6 その他の画面サンプル【追加】

「(1) ログイン成功画面(loginOK.html) の注意 (P251)」に追加します。

【追加】

ダイナミック VLAN モードまたはレガシーモードにおいて、loginOK.html ファイルに、ほかのファイルを関連付けしたとき、ログイン成功画面が正常に表示されない場合があります。

13. DHCP snooping (P275~P301)

(1) 13. 1. 7 DHCP snooping 使用時の注意事項【訂正】

「(1)VLAN 拡張機能のポート間中継遮断機能との共存 (P288)」のタイトルを訂正します。

【訂正前】

(1) VLAN 拡張機能のポート間中継遮断機能との共存

【訂正後】

(1) レイヤ 2 スイッチ機能との共存

「(2)QoS との共存 (P288)」を訂正します。

【訂正前】

(2) QoS との共存

端末フィルタと QoS (受信側) は、同一ポート内で共存できません。

【訂正後】

(2) QoS との共存

端末フィルタと QoS (受信側) は、同一ポート内で共存できません。

QoS との同時動作については、「コンフィグレーションガイド Vol.2 3.1.4 フロー検出使用時の注意事項(5)ほかの機能との同時動作」を参照してください。

17. IEEE802.3ah/UDLD (P351~P357)

(1) 17.1.1 概要【訂正】

「概要の内容（P352）」を訂正します。

【訂正前】

<省略>

IEEE802.3ah(Ethernet in the First Mile)で slow プロトコルの一部として位置づけられた OAM(Operations, Administration, and Maintenance)プロトコル(以下 IEEE802.3ah/OAM と示す)では、双方向リンク状態の監視を行うために、制御フレームを用いて定常的に対向装置と自装置の OAM 状態情報の交換を行い、相手装置とのフレームの到達性を確認する方式が述べられています。本装置では IEEE802.3ah/OAM 機能を用いて双方向リンク状態の監視を行い、その確認がとれない場合に片方向リンク障害を検出する方式で UDLD 機能を実現しています。

<省略>

Ethernet ケーブルで接続された片方の装置側のポートにコンフィグレーションコマンド `efmoam active udld` を設定することで、片方向リンク障害の検出動作を行います。正しく片方向リンク障害を検出させるためには、もう一方の装置側のポートで IEEE802.3ah/OAM 機能が有効である必要があります。`efmoam active udld` コマンドを設定したポートで片方向リンク障害を検出した場合、該当するポートを `inactivate` することで対向装置側のポートでもリンクダウンが検出され、接続された双方の装置で該当ポートでの運用を停止します。

【訂正後】

<省略>

IEEE802.3ah(Ethernet in the First Mile)で slow プロトコルの一部として位置づけられた OAM(Operations, Administration, and Maintenance)プロトコル(以下 IEEE802.3ah/OAM と示す)では、双方向リンク状態の監視を行うために、制御フレームを用いて定常的に対向装置と自装置の OAM 状態情報の交換を行い、相手装置とのフレームの到達性を確認する方式が述べられています。本装置では IEEE802.3ah/OAM 機能を用いて双方向リンク状態の監視を行い、その確認がとれない場合に片方向リンク障害を検出する方式で UDLD 機能を実現しています。本装置の UDLD 機能では、片方向リンク障害の検出のほかに、自装置から送信した制御フレームを同一装置で受信した場合はループと判断して、受信したポートを `inactivate` します。

<省略>

Ethernet ケーブルで接続された双方の装置のポートにコンフィグレーションコマンド `efmoam active udld` を設定することで、片方向リンク障害の検出動作を行います。`efmoam active udld` コマンドを設定したポートで片方向リンク障害を検出した場合、該当するポートを `inactivate` することで対向装置側のポートでもリンクダウンが検出され、接続された双方の装置で該当ポートでの運用を停止します。

19. L2 ループ検知 (P363~P372)

(1) 19. 1. 2 動作仕様【追加】

「(4) 運用メッセージの表示について (P365)」を追加します。[Ver. 10.7 以降]

【追加】

(4) 運用メッセージの表示について

ループ障害検知時に表示する運用メッセージは、いずれかのポートで表示した場合、同じポートで続けて L2 ループ検知フレームを受信しても、前回の表示から 1 分間は表示しません。前回の表示から 1 分間経過すると、L2 ループ検知フレーム受信時にループ障害検知の運用メッセージを表示します。

26. ポートミラーリング (P473~P477)

(1) 26. 1. 2 ポートミラーリングの注意事項【追加】

「(2) ポートミラーリング使用時の注意事項 (P475)」に追加します。

【追加】

- ・送信フレームのミラーリングでは、モニターポートが下記プロトコル等の機能により通信不可の場合においても、以下のフレームをミラーリングします。
 - ・対象プロトコル・機能等
 - ・スパニングツリーによる Blocking, Discarding, Listening, Learning 状態
 - ・GSRP によるブロッキング状態
 - ・Ring Protocol によるブロッキング状態
 - ・アップリンク・リダンダントでのスタンバイポート
 - ・IEEE802.1X による未認証時
 - ・ミラーリングするフレーム
 - ・フラッディングされるフレーム
 - ・モニターポートの状態を送信禁止にする際に実施する MAC アドレステーブルのクリア処理中に MAC アドレステーブルに一致したフレーム
- ・送信フレームのミラーリングでは、ポート帯域制御で廃棄されないフレームがミラーリングされなかったり、ポート帯域制御で廃棄されるフレームがミラーリングされたりすることがあります。

3. コンフィグレーションコマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S003-D0) の訂正内容

4. ログインセキュリティと RADIUS/TACACS+ (P27~P65)

(1) *aaa accounting commands* 【訂正】

「パラメータ broadcast の説明 (P28)」を訂正します。

【訂正前】

broadcast

本パラメータを指定した場合、radius-server host または tacacs-server host コマンドで設定された最大 4 台のサーバすべてに、送受信の成功可否にかかわらず順にアカウントリング情報を送信します。

【訂正後】

broadcast

本パラメータを指定した場合、tacacs-server host コマンドで設定された最大 4 台のサーバすべてに、送受信の成功可否にかかわらず順にアカウントリング情報を送信します。

「関連コマンド (P29)」を訂正します。

【訂正前】

[関連コマンド]

radius-server host
tacacs-server host

【訂正後】

[関連コマンド]

tacacs-server host

7. 装置の管理 (P93～P99)

(1) *system temperature-warning-level* 【訂正】

「機能説明, [コマンド省略時の動作], [注意事項] (P99)」を訂正します。

【訂正前】

system temperature-warning-level

装置の入気温度が指定温度を超過した場合に運用メッセージを出力します。

<途中省略>

[コマンド省略時の動作]

指定温度の超過による運用メッセージを出力しません。

<途中省略>

[注意事項]

装置の入気温度がすでに設定した値を超過している場合は, すぐに運用メッセージを出力します。

【訂正後】

system temperature-warning-level

装置の入気温度が指定温度以上になった場合に運用メッセージを出力します。

<途中省略>

[コマンド省略時の動作]

指定温度以上による運用メッセージを出力しません。

<途中省略>

[注意事項]

装置の入気温度がすでに設定した値以上になっている場合は, すぐに運用メッセージを出力します。

10. リンクアグリゲーション (P135～P152)

(1) *channel-group max-active-port* 【追加】

「注意事項 (P138)」に追加します。

【追加】

4. 本コマンドを設定して, リンクダウンしていたポートがスタンバイリンクに選択された場合は, 離脱を示すログだけを表示します。該当ポートに対する集約を示すログは表示しません。

11. MAC アドレステーブル (P153~P156)

(1) *mac-address-table static* 【追加】

「注意事項 (P156)」に追加します。

【追加】

- 出力先インタフェースにチャネルグループを構成する物理ポートを指定した場合、通信できない場合があります。スタティック MAC アドレスの出力先をチャネルグループに設定する際は `port-channel` パラメータで指定してください。

12. VLAN (P157~P192)

(1) *vlan-up-message* 【追加】

「vlan-up-message」を追加します。[Ver. 11. 7. C 以降]

【追加】

vlan-up-message

`no vlan-up-message` コマンドにより VLAN の UP および DOWN 時の運用ログメッセージおよび LinkUP/LinkDown トラップの発行を抑止します。

【入力形式】

情報の設定

`no vlan-up-message`

情報の削除

`vlan-up-message`

【入力モード】

(config)

【パラメータ】

なし

【コマンド省略時の動作】

VLAN UP および DOWN 時に運用ログメッセージおよび LinkUP/LinkDown トラップを発行します。

【通信への影響】

なし

【設定値の反映契機】

設定変更後、すぐに運用に反映されます。

【注意事項】

- VLAN についての ifMIB グループの `ifLinkUpDownTrapEnable` の値は、本コマンドの設定内容に影響されません。

【関連コマンド】

なし

23. アクセスリスト (P349～P410)

(1) 指定できる名称【訂正】【追加】

「指定できる名称 (P350)」のタイトルを訂正します。

【訂正前】

指定できる名称

【訂正後】

指定できる名称および値

「アクセスリスト作成数とインタフェースへの設定数についての説明 (P355)」を追加します。

【追加】

■アクセスリスト作成数について

アクセスリスト作成数とは、アクセスリストの識別子として使用する名称の数です。

■インタフェースへの設定数について

インタフェースへの設定数とは、インタフェースに設定できるアクセスリストの延べ数です。

■アクセスリスト作成数とインタフェースへの設定数の算出例

アクセスリスト作成数とインタフェースへの設定数の算出例を、次の表に示します。

表 23-10 アクセスリスト作成数とインタフェースへの設定数

設定例	使用するアクセスリスト作成数と インタフェースへの設定数
<p>アクセスリスト AAA を作成し、イーサネットインタフェース 0/1 の inbound に設定</p> <pre>interface gigabitethernet 0/1 ip access-group AAA in</pre> <pre>ip access-list extended AAA 10 permit tcp any any 20 deny udp any any</pre>	<p>アクセスリスト作成数：1 リスト インタフェースへの設定数：1 リスト</p>
<p>アクセスリスト AAA を作成し、イーサネットインタフェース 0/1 と 0/2 の inbound に設定</p> <pre>interface gigabitethernet 0/1 ip access-group AAA in</pre> <pre>interface gigabitethernet 0/2 ip access-group AAA in</pre> <pre>ip access-list extended AAA 10 permit tcp any any 20 deny udp any any</pre>	<p>アクセスリスト作成数：1 リスト インタフェースへの設定数：2 リスト</p>
<p>アクセスリスト AAA を作成し、イーサネットインタフェース 0/1 の inbound に設定と、アクセスリスト BBB を作成し、イーサネットインタフェース 0/2 の inbound に設定</p> <pre>interface gigabitethernet 0/1 ip access-group AAA in</pre> <pre>interface gigabitethernet 0/2 ip access-group BBB in</pre> <pre>ip access-list extended AAA 10 permit tcp any any 20 deny udp any any</pre> <pre>ip access-list extended BBB 10 permit udp any any 20 deny tcp any any</pre>	<p>アクセスリスト作成数：2 リスト インタフェースへの設定数：2 リスト</p>
<p>アクセスリスト AAA を作成し、インタフェースに未適用</p> <pre>ip access-list extended AAA 10 permit tcp any any</pre>	<p>アクセスリスト作成数：1 リスト インタフェースへの設定数：0 リスト</p>

(2) *access-list* 【訂正】

「アクセスリスト作成数についての説明（P356）」を訂正します。

【訂正内容】

<省略>

IPv4, IPv6, MAC のアクセスリストを最大 1024 リスト作成できます。remark は、アクセスリストおよび QoS フローリスト合わせて、装置当たり最大 1024 指定できます。

追加 ➔ アクセスリストの詳細については、「■アクセスリスト作成数について」を参照してください。

(3) *ip access-group* 【訂正】

「インタフェースへの設定数についての説明（P377）」を訂正します。

【訂正前】

イーサネットインタフェースまたはVLANインタフェースに対してIPv4アクセスリストを適用し、IPv4フィルタ機能を有効にします。装置当たり、ip access-group、ipv6 traffic-filter および mac access-group を最大 540 インタフェースに設定できます。

【訂正後】

イーサネットインタフェースまたはVLANインタフェースに対してIPv4アクセスリストを適用し、IPv4フィルタ機能を有効にします。装置当たり、ip access-group、ipv6 traffic-filter および mac access-group をインタフェースに対して最大 540 リスト設定できます。

インタフェースへの設定数についての詳細は、「■インタフェースへの設定数について」を参照してください。

(4) *ip access-list extended* 【訂正】

「アクセスリスト作成数についての説明（P379）」を訂正します。

【訂正内容】

<省略>

装置当たり、IPv4, IPv6, MAC のアクセスリストを最大 1024 リスト作成できます。フィルタ条件を最大 1024 エントリ作成できます。

追加 ➔ アクセスリストの詳細については、「■アクセスリスト作成数について」を参照してください。

(5) *ip access-list standard* 【訂正】

「アクセスリスト作成数についての説明（P383）」を訂正します。

【訂正内容】

<省略>

装置当たり、IPv4, IPv6, MAC のアクセスリストを最大 1024 リスト作成できます。フィルタ条件を最大 1024 エントリ作成できます。

追加 ➔ アクセスリストの詳細については、「■アクセスリスト作成数について」を参照してください。

(6) *ipv6 access-list* 【訂正】

「アクセスリスト作成数についての説明（P385）」を訂正します。

【訂正内容】

<省略>

装置当たり，IPv4，IPv6，MAC のアクセスリストを最大 1024 リスト作成できます。フィルタ条件を最大 1024 エントリ作成できます。

追加 → アクセスリストの詳細については，「■アクセスリスト作成数について」を参照してください。

(7) *ipv6 traffic-filter* 【訂正】

「インタフェースへの設定数についての説明（P388）」を訂正します。

【訂正前】

イーサネットインタフェースに対して IPv6 アクセスリストを適用し，IPv6 フィルタ機能を有効にします。装置当たり，ip access-group，ipv6 traffic-filter および mac access-group を最大 540 インタフェースに設定できます。

【訂正後】

イーサネットインタフェースに対して IPv6 アクセスリストを適用し，IPv6 フィルタ機能を有効にします。装置当たり，ip access-group，ipv6 traffic-filter および mac access-group をインタフェースに対して最大 540 リスト設定できます。

インタフェースへの設定数についての詳細は，「■インタフェースへの設定数について」を参照してください。

(8) *mac access-group* 【訂正】

「インタフェースへの設定数についての説明（P390）」を訂正します。

【訂正前】

イーサネットインタフェースまたは VLAN インタフェースに対して MAC アクセスリストを適用し，MAC フィルタ機能を有効にします。装置当たり，ip access-group，ipv6 traffic-filter および mac access-group を最大 540 インタフェースに設定できます。

【訂正後】

イーサネットインタフェースまたは VLAN インタフェースに対して MAC アクセスリストを適用し，MAC フィルタ機能を有効にします。装置当たり，ip access-group，ipv6 traffic-filter および mac access-group をインタフェースに対して最大 540 リスト設定できます。

インタフェースへの設定数についての詳細は，「■インタフェースへの設定数について」を参照してください。

(9) *mac access-list extended* 【訂正】

「アクセスリスト作成数についての説明（P392）」を訂正します。

【訂正内容】

<省略>

装置当たり、IPv4、IPv6、MAC のアクセスリストを最大 1024 リスト作成できます。フィルタ条件を最大 1024 エントリ作成できます。

追加 → アクセスリストの詳細については、「■アクセスリスト作成数について」を参照してください。

24. *QoS* (P411~P457)

(1) *指定できる名称および値* 【追加】

「QoS フローリスト作成数とインタフェースへの設定数についての説明（P412）」を追加します。

【追加】

■QoS フローリスト作成数について

QoS フローリスト作成数とは、QoS フローリストの識別子として使用する名称の数です。

■インタフェースへの設定数について

インタフェースへの設定数とは、インタフェースに設定できる QoS フローリストの延べ数です。

■QoS フローリスト作成数とインタフェースへの設定数の算出例

QoS フローリスト作成数とインタフェースへの設定数の算出例を、次の表に示します。

表 24-11 QoS フローリスト作成数とインタフェースへの設定数

設定例	使用する QoS フローリスト作成数と インタフェースへの設定数
<p>QoS フローリスト AAA を作成し、イーサネットインタフェース 0/1 の inbound に設定</p> <pre>interface gigabitethernet 0/1 ip qos-flow-group AAA in ip qos-flow-list AAA 10 qos tcp any any action max-rate 10M 20 qos udp any any action min-rate 10M</pre>	<p>QoS フローリスト作成数：1 リスト インタフェースへの設定数：1 リスト</p>
<p>QoS フローリスト AAA を作成し、イーサネットインタフェース 0/1 と 0/2 の inbound に設定</p> <pre>interface gigabitethernet 0/1 ip qos-flow-group AAA in interface gigabitethernet 0/2 ip qos-flow-group AAA in ip qos-flow-list AAA 10 qos tcp any any action max-rate 10M 20 qos udp any any action min-rate 10M</pre>	<p>QoS フローリスト作成数：1 リスト インタフェースへの設定数：2 リスト</p>
<p>QoS フローリスト AAA を作成し、イーサネットインタフェース 0/1 の inbound に設定と、QoS フローリスト BBB を作成し、イーサネットインタフェース 0/2 の inbound に設定</p> <pre>interface gigabitethernet 0/1 ip qos-flow-group AAA in interface gigabitethernet 0/2 ip qos-flow-group BBB in ip qos-flow-list AAA 10 qos tcp any any action max-rate 10M 20 qos udp any any action max-rate 10M ip qos-flow-list BBB 10 qos udp any any action max-rate 10M 20 qos tcp any any action min-rate 10M</pre>	<p>QoS フローリスト作成数：2 リスト インタフェースへの設定数：2 リスト</p>
<p>QoS フローリスト AAA を作成し、インタフェースに未適用</p> <pre>ip qos-flow-list AAA 10 qos tcp any any action max-rate 10M</pre>	<p>QoS フローリスト作成数：1 リスト インタフェースへの設定数：0 リスト</p>

(2) *ip qos-flow-group* 【訂正】

「インタフェースへの設定数についての説明 (P418)」を訂正します。

【訂正前】

イーサネットインタフェースまたは VLAN インタフェースに対して、IPv4 QoS フローリストを適用して QoS 機能を有効にします。装置当たり、`ip qos-flow-group`、`ipv6 qos-flow-group` および `mac qos-flow-group` を最大 540 インタフェースに設定できます。

【訂正後】

イーサネットインタフェースまたは VLAN インタフェースに対して、IPv4 QoS フローリストを適用して QoS 機能を有効にします。装置当たり、`ip qos-flow-group`、`ipv6 qos-flow-group` および `mac qos-flow-group` をインタフェースに対して最大 540 リスト設定できます。
インタフェースへの設定数についての詳細は、「■インタフェースへの設定数について」を参照してください。

(3) *ip qos-flow-list* 【訂正】

「QoS フローリスト作成数についての説明 (P420)」を訂正します。

【訂正内容】

QoS のフロー検出および動作指定を設定するための IPv4 QoS フローリストを作成します。装置当たり、IPv4、IPv6、MAC の QoS フローリストを最大 1024 リスト作成できます。フロー検出および動作指定を最大 1024 エントリ作成できます。

追加 → QoS フローリストの詳細については、「■QoS フローリスト作成数について」を参照してください。

(4) *ipv6 qos-flow-group* 【訂正】

「インタフェースへの設定数についての説明 (P422)」を訂正します。

【訂正前】

イーサネットインタフェースに対して、IPv6 QoS フローリストを適用して QoS 機能を有効にします。装置当たり、`ip qos-flow-group`、`ipv6 qos-flow-group` および `mac qos-flow-group` を最大 540 インタフェースに設定できます。

【訂正後】

イーサネットインタフェースに対して、IPv6 QoS フローリストを適用して QoS 機能を有効にします。装置当たり、`ip qos-flow-group`、`ipv6 qos-flow-group` および `mac qos-flow-group` をインタフェースに対して最大 540 リスト設定できます。
インタフェースへの設定数についての詳細は、「■インタフェースへの設定数について」を参照してください。

(5) *ipv6 qos-flow-list* 【訂正】

「QoS フローリスト作成数についての説明（P424）」を訂正します。

【訂正内容】

QoS のフロー検出および動作指定を設定するための IPv6 QoS フローリストを作成します。装置当たり、IPv4、IPv6、MAC の QoS フローリストを最大 1024 リスト作成できます。フロー検出および動作指定を最大 1024 エントリ作成できます。

追加 → QoS フローリストの詳細については、「■QoS フローリスト作成数について」を参照してください。

(6) *mac qos-flow-group* 【訂正】

「インタフェースへの設定数についての説明（P428）」を訂正します。

【訂正前】

イーサネットインタフェースまたはVLANインタフェースに対して、MAC QoS フローリストを適用し、QoS 機能を有効にします。装置当たり、`ip qos-flow-group`、`ipv6 qos-flow-group` および `mac qos-flow-group` を最大 540 インタフェースに設定できます。

【訂正後】

イーサネットインタフェースまたはVLANインタフェースに対して、MAC QoS フローリストを適用し、QoS 機能を有効にします。装置当たり、`ip qos-flow-group`、`ipv6 qos-flow-group` および `mac qos-flow-group` をインタフェースに対して最大 540 リスト設定できます。インタフェースへの設定数についての詳細は、「■インタフェースへの設定数について」を参照してください。

(7) *mac qos-flow-list* 【訂正】

「QoS フローリスト作成数についての説明（P430）」を訂正します。

【訂正内容】

QoS のフロー検出および動作指定を設定するための MAC QoS フローリストを作成します。装置当たり、IPv4、IPv6、MAC の QoS フローリストを最大 1024 リスト作成できます。フロー検出および動作指定を最大 1024 エントリ作成できます。

追加 → QoS フローリストの詳細については、「■QoS フローリスト作成数について」を参照してください。

27. Web 認証 (P535～P565)

(1) コンフィグレーションコマンドと動作モードの対応【訂正】

「表 27-1 コンフィグレーションコマンドと Web 認証の動作モード(P536～P537)」を訂正します。

【変更前】

Web 認証のコンフィグレーションコマンドが設定できる、Web 認証の動作モードを次の表に示します。

表 27-1 コンフィグレーションコマンドと Web 認証の動作モード

コマンド名	Web 認証の動作モード		
	固定 VLAN モード	ダイナミック VLAN モード	レガシーモード
aaa accounting web-authentication default start-stop group radius	○	○	○
aaa authentication web-authentication default group radius	○	○	○
authentication arp-relay	○	○	—
authentication force-authorized enable	○	○	—
authentication force-authorized vlan	—	○	—
authentication ip access-group	○	○	—
authentication max-user	○	○	—
authentication max-user (interface)	○	○	—
authentication radius-server dead-interval	○	○	—
web-authentication auto-logout	—	○	○
web-authentication ip address	○	○	—
web-authentication jump-url	○	○	○
web-authentication logging enable	○	○	○
web-authentication logout ping tos-windows	○	—	—
web-authentication logout ping ttl	○	—	—
web-authentication logout polling count	○	—	—
web-authentication logout polling enable	○	—	—
web-authentication logout polling interval	○	—	—
web-authentication logout polling retry-interval	○	—	—
web-authentication max-timer	○	○	○
web-authentication max-user	—	○	○
web-authentication port	○	○	×
web-authentication redirect enable	○	○	—
web-authentication redirect-mode	○	○	—
web-authentication static-vlan max-user	○	—	—
web-authentication system-auth-control	○	○	○
web-authentication vlan	×	×	○
web-authentication web-port	○	○	○

【変更後】

Web 認証のコンフィグレーションコマンドが設定できる, Web 認証の動作モードを次の表に示します。

表 27-1 コンフィグレーションコマンドと Web 認証の動作モード

コマンド名	Web 認証の動作モード		
	固定 VLAN モード	ダイナミック VLAN モード	レガシーモード
aaa accounting web-authentication default start-stop group radius	○	○	○
aaa authentication web-authentication default group radius	○	○	○
authentication arp-relay	○	○	—
authentication force-authorized enable	○	○	—
authentication force-authorized vlan	—	○	—
authentication ip access-group	○	○	—
authentication max-user	○	○	—
authentication max-user (interface)	○	○	—
authentication radius-server dead-interval	○	○	—
web-authentication auto-logout	—	○	○
web-authentication ip address	○	○	—
web-authentication jump-url	○	○	○
web-authentication logging enable	○	○	○
web-authentication logout ping tos-windows	○	—	—
web-authentication logout ping ttl	○	—	—
web-authentication logout polling count	○	—	—
web-authentication logout polling enable	○	—	—
web-authentication logout polling interval	○	—	—
web-authentication logout polling retry-interval	○	—	—
web-authentication max-timer	○	○	○
web-authentication max-user	—	○	○
web-authentication port	○	○	×
web-authentication redirect enable	○	○	—
web-authentication redirect-mode	○	○	—
web-authentication ssl connection-timeout	○	○	○
web-authentication static-vlan max-user	○	—	—
web-authentication system-auth-control	○	○	○
web-authentication tcp retransmission initial-timeout	○	○	○
web-authentication vlan	×	×	○
web-authentication web-port	○	○	○

(2) *web-authentication ssl connection-timeout* 【追加】

「web-authentication ssl connection-timeout」を追加します。

【追加】

web-authentication ssl connection-timeout

SSL のセッション成立のタイムアウト値を設定します。

【入力形式】

情報の設定・変更

web-authentication ssl connection-timeout <seconds>

情報の削除

no web-authentication ssl connection-timeout

【入力モード】

(config)

【パラメータ】

<seconds>

SSL のセッション成立待ちのタイムアウト時間を秒単位で設定します。

1. 本パラメータ省略時の初期値
省略できません。
2. 値の設定範囲
1 ～ 60 の値。

【コマンド省略時の動作】

SSL のセッション成立タイムアウトは 60 秒です。

【通信への影響】

なし

【設定値の反映契機】

設定値変更後、運用コマンド `restart web-authentication web-server` による Web サーバの再起動後に反映されます。

【注意事項】

本コンフィグレーションは全ての HTTPS 要求に適用されます。

負荷が高い場合、SSL の接続が頻繁的に切断される可能性があります。

実際のタイムアウト時間は本コンフィグレーションで指定された値より大きくなる可能性があります。

【関連コマンド】

web-authentication system-auth-control

(3) *web-authentication tcp-retransmission initial-timeout* 【追加】

「web-authentication tcp-retransmission initial-timeout」を追加します。

【追加】

web-authentication tcp-retransmission initial-timeout

HTTP のパケット再送初期タイムアウト値を設定します。

[入力形式]

情報の設定・変更

web-authentication tcp-retransmission initial-timeout <seconds>

情報の削除

no web-authentication tcp-retransmission initial-timeout

[入力モード]

(config)

[パラメータ]

<seconds>

HTTP パケット再送の初期タイムアウト時間を設定します。

1. 本パラメータ省略時の初期値
省略できません。
2. 値の設定範囲
1 ～ 6 の値。

[コマンド省略時の動作]

HTTP パケットの再送初期タイムアウトは 1 秒です。

[通信への影響]

なし

[設定値の反映契機]

設定値変更後、すぐに運用に反映されます。

[注意事項]

本コンフィグレーションは全ての HTTP/HTTPS 要求に適用されます。

負荷が高い場合、実際の再送時間は本コンフィグレーションで指定された値より大きくなる可能性があります。

[関連コマンド]

web-authentication system-auth-control

38. SNMP (P695～P723)

(1) snmp-server host 【訂正】

「[パラメータ] (P712～P715)」を訂正します。

【訂正前】

frame_error_snd

フレーム受信エラー発生時のトラップを送信します。

frame_error_rcv

フレーム送信エラー発生時のトラップを送信します。

【訂正後】

frame_error_snd

フレーム送信エラー発生時のトラップを送信します。

frame_error_rcv

フレーム受信エラー発生時のトラップを送信します。

39. ログ出力機能 (P725～P739)

(1) logging email-server 【訂正】

「パラメータ (P731)」を訂正します。

【訂正前】

```
port <port number>
<途中省略>
2. 値の設定範囲
0 ～ 65535
```

【訂正後】

```
port <port number>
<途中省略>
2. 値の設定範囲
0 または 1 ～ 65535
0 を指定した場合は本パラメータ省略時の初期値を使用します。
```

44. コンフィグレーション編集時のエラーメッセージ (P775~P801)

(1) 44. 1. 9 VLAN 情報【訂正】

「表 44-9 VLAN のエラーメッセージ (P781~P782)」を訂正します。

【訂正内容】

表 44-9 VLAN のエラーメッセージ

メッセージ		内容
削除	Maximum number which can be used is exceeded.	装置全体で使用するプロトコル値 (ethertype 値, llc 値, snap-ethertype 値) は最大 16 個です。16 個を超えて設定できません。
	Mirror port and switchport are inconsistent.	ミラーポートと switchport は同時に設定できません。
	Not found VLAN-ID <vlan id>.	指定された VLAN ID は設定されません。 <vlan id> : VLAN ID

(2) 44. 1. 31 ポートミラーリング情報【訂正】

「表 44-31 ポートミラーリングのエラーメッセージ (P801)」を訂正します。

【訂正前】

表 44-31 ポートミラーリングのエラーメッセージ

メッセージ	内容
Mirror port and switchport are inconsistent.	ミラーポートと switchport は同時に設定できません。

【訂正後】

表 44-31 ポートミラーリングのエラーメッセージ

メッセージ	内容
Mirror port and switchport are inconsistent.	ミラーポートはアクセスポート以外のポート, または VLAN に所属しているポートに対して設定できません。

4. 運用コマンドレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S004-D0) の訂正内容

3. 運用端末とリモート操作 (P17~P33)

(1) *telnet* 【追加】

「[注意事項] (P23~P24)」に追加します。

【追加】

- ・本装置から他の装置へリモート接続した状態で、画面の文字列等を表示最中に運用端末より [Ctrl+C] 等の中断操作を行った際に、正しく動作しない場合があります。その場合は、エスケープキャラクター ^] (Ctrl+]) を押下した後に *quit* を入力し、一度 *telnet* コマンドを終了してから再度リモート接続してください。

6. 時刻の設定と NTP (P95～P101)

(1) set clock 【訂正】

「表 6-1 set clock コマンドの応答メッセージ一覧 (P97)」を訂正します。

【訂正内容】

表 6-1 set clock コマンドの応答メッセージ一覧

メッセージ		内容	
illegal time format.		時刻入力形式が違います。	
追加	{	illegal time.	日付・時刻の値が範囲外です。範囲内の値を設定してください。
		invalid day of month supplied.	日の値が範囲外です。範囲内の値を設定してください。
		invalid hour supplied.	時の値が範囲外です。範囲内の値を設定してください。
		invalid minute supplied.	分の値が範囲外です。範囲内の値を設定してください。
		invalid month supplied.	月の値が範囲外です。範囲内の値を設定してください。
		invalid second supplied.	秒の値が範囲外です。範囲内の値を設定してください。

「注意事項 (P98)」を訂正します。

【訂正前】

[注意事項]

本装置で収集している統計情報の CPU 使用率は、時刻が変更された時点で 0 クリアされます。

【訂正後】

[注意事項]

【Ver. 11.7.C まで】

1. 本装置で収集している統計情報の CPU 使用率は、時刻が変更された時点で 0 クリアされます。
2. カレンダー上で不正な日付・時刻を指定して入力しないで下さい。不正な日付・時刻が指定された場合はカレンダーに従い日付・時刻を繰り上げまたは繰り下げして設定します。例えば、月日のパラメータ mmdd に 0431 を指定した場合は 5 月 1 日が設定されます。
3. 入力できる範囲は「1969/01/01 00:00:00～2038/01/19 03:14:07」です。

【Ver. 11.7.D 以降】

1. 本装置で収集している統計情報の CPU 使用率は、時刻が変更された時点で 0 クリアされます。
2. 入力できる範囲は「1969/01/01 00:00:00～2038/01/19 03:14:07」です。

8. ソフトウェアバージョンと装置状態の確認 (P111~P147)

(1) show version 【訂正】

「表 8-1 show version コマンド表示内容一覧 (P112~P114)」を訂正します。[Ver. 11.7 以降]

【訂正内容】

表 8-1 show version コマンド表示内容一覧

表示項目	表示書式	意味
:	:	:
H/W ^{※2}	AX-2430-24T-B [ssssssss]	AX2430S-24T (L2 スイッチ) <ul style="list-style-type: none"> AC モデル ギガビットイーサネット×24 (10/100/1000BASE-T 固定×20+10/100/1000BASE-T と 1000BASE-X (SFP) の選択×4) L2 ベーシックソフトウェア (SSH あり)
	AX-2430-24TE-B [ssssssss]	AX2430S-24T (L2 スイッチ) <ul style="list-style-type: none"> AC モデル ギガビットイーサネット×24 (10/100/1000BASE-T 固定×20+10/100/1000BASE-T と 1000BASE-X (SFP) の選択×4) L2 ベーシックソフトウェア (SSH あり)
	AX-2430-24TD-B [ssssssss]	AX2430S-24TD (L2 スイッチ) <ul style="list-style-type: none"> DC モデル ギガビットイーサネット×24 (10/100/1000BASE-T 固定×20+10/100/1000BASE-T と 1000BASE-X (SFP) の選択×4) L2 ベーシックソフトウェア (SSH あり)
追加	AX-2430-24TDE-B [ssssssss]	AX2430S-24TD (L2 スイッチ) <ul style="list-style-type: none"> DC モデル ギガビットイーサネット×24 (10/100/1000BASE-T 固定×20+10/100/1000BASE-T と 1000BASE-X (SFP) の選択×4) L2 ベーシックソフトウェア (SSH あり)
	AX-2430-24T2X-B [sssssss]	AX2430S-24T2X (L2 スイッチ) <ul style="list-style-type: none"> AC モデル ギガビットイーサネット×24 (10/100/1000BASE-T 固定×20+10/100/1000BASE-T と 1000BASE-X (SFP) の選択×4) 10 ギガビットイーサネット×2 (10GBASE-R (XFP) ×2) L2 ベーシックソフトウェア (SSH あり)
	AX-2430-24T2XE-B [sssssss]	AX2430S-24T2X (L2 スイッチ) <ul style="list-style-type: none"> AC モデル ギガビットイーサネット×24 (10/100/1000BASE-T 固定×20+10/100/1000BASE-T と 1000BASE-X (SFP) の選択×4) 10 ギガビットイーサネット×2 (10GBASE-R (XFP) ×2) L2 ベーシックソフトウェア (SSH あり)
	AX-2430-24T2XD-B [ssssssss]	AX2430S-24T2XD (L2 スイッチ) <ul style="list-style-type: none"> DC モデル ギガビットイーサネット×24 (10/100/1000BASE-T 固定×20+10/100/1000BASE-T と 1000BASE-X (SFP) の選択×4) 10 ギガビットイーサネット×2 (10GBASE-R (XFP) ×2) L2 ベーシックソフトウェア (SSH あり)

表示項目	表示書式	意味
追加	AX-2430-48T-B [ssss …… ssss]	AX2430S-48T (L2 スイッチ) <ul style="list-style-type: none"> AC モデル ギガビットイーサネット×48 (10/100/1000BASE-T 固定×44+10/100/1000BASE-T と 1000BASE-X (SFP) の選択×4) L2 ベーシックソフトウェア (SSH あり)
	AX-2430-48TE-B [ssss …… ssss]	AX2430S-48T (L2 スイッチ) <ul style="list-style-type: none"> AC モデル ギガビットイーサネット×48 (10/100/1000BASE-T 固定×44+10/100/1000BASE-T と 1000BASE-X (SFP) の選択×4) L2 ベーシックソフトウェア (SSH あり)
	AX-2430-48TD-B [ssss …… ssss]	AX2430S-48TD (L2 スイッチ) <ul style="list-style-type: none"> DC モデル ギガビットイーサネット×48 (10/100/1000BASE-T 固定×44+10/100/1000BASE-T と 1000BASE-X (SFP) の選択×4) L2 ベーシックソフトウェア (SSH あり)
	AX-2430-48TDE-B [ssss …… ssss]	AX2430S-48TD (L2 スイッチ) <ul style="list-style-type: none"> DC モデル ギガビットイーサネット×48 (10/100/1000BASE-T 固定×44+10/100/1000BASE-T と 1000BASE-X (SFP) の選択×4) L2 ベーシックソフトウェア (SSH あり)
	AX-2430-48T2X-B [ssss …… ssss]	AX2430S-48T2X (L2 スイッチ) <ul style="list-style-type: none"> AC モデル ギガビットイーサネット×48 (10/100/1000BASE-T×48) 10 ギガビットイーサネット×2 (10GBASE-R (XFP) ×2) L2 ベーシックソフトウェア (SSH あり)
	AX-2430-48T2XE-B [ssss …… ssss]	AX2430S-48T2X (L2 スイッチ) <ul style="list-style-type: none"> AC モデル ギガビットイーサネット×48 (10/100/1000BASE-T×48) 10 ギガビットイーサネット×2 (10GBASE-R (XFP) ×2) L2 ベーシックソフトウェア (SSH あり)

(2) show system 【訂正】

「表 8-3 show system コマンド表示内容 (P115～P117)」を訂正します。[Ver. 11.5.B 以降]

【訂正前】

表 8-3 show system コマンド表示内容

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
PS	入力電源の実装状態	active : 正常供給 fault : 供給なし/電圧異常
EPU	外部入力電源の実装状態	active : 正常供給 fault : 供給なし/電圧異常 notconnect : 未実装
:	:	:

【訂正後】

表 8-3 show system コマンド表示内容

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
PS	入力電源の状態	active : 正常供給 fault : 供給なし/電圧異常
EPU	外部入力電源の状態	active : 正常供給 fault : 供給なし/障害中 notconnect : 未実装
:	:	:

「表 8-3 show system コマンド表示内容 (P115～P117)」を訂正します。[Ver. 11. 7. C 以降]

【訂正前】

表 8-3 show system コマンド表示内容

表示項目	表示内容	表示詳細情報
:	:	:
Temperature	入気温度情報	normal : 正常 (0℃～40℃) caution : 注意 (～0℃, 40℃～49℃) 注 温度センサーが 50℃を超えるとソフトウェアが停止します。
:	:	:

【訂正後】

表 8-3 show system コマンド表示内容

表示項目	表示内容	表示詳細情報
:	:	:
Temperature	入気温度情報	normal : 正常 (0℃より大きく 40℃未満) caution : 注意 (0℃以下または 40℃以上 60℃未満) 注 温度センサーが 60℃以上になるとソフトウェアが停止します。
:	:	:

(3) show environment 【訂正】

「表 8-8 show environment コマンドの表示内容 (P123～P124)」を訂正します。
[Ver. 11.5.B 以降]

【訂正前】

表 8-8 show environment コマンドの表示内容

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
PS EPU	入力電源の実装状態	active : 正常供給 fault : 供給なし/電圧異常 notconnect : 未実装
:	:	:
Accumulated running time	累計稼働時間 ^{※2}	total : 装置の通電を開始してからの累計稼働時間 critical : 40℃以上の環境下での稼働時間

【訂正後】

表 8-8 show environment コマンドの表示内容

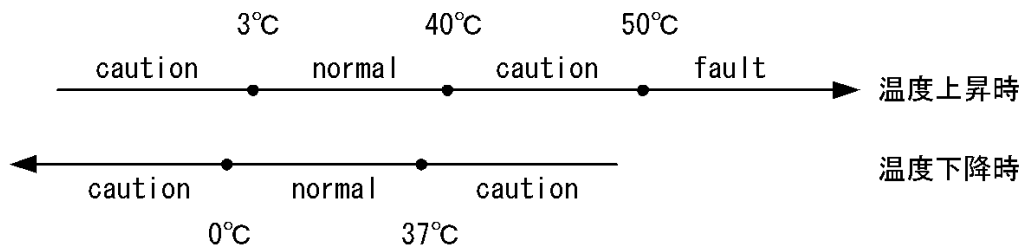
表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
PS	入力電源の状態	active : 正常供給 fault : 供給なし/電圧異常
EPU	外部入力電源の状態	active : 正常供給 fault : 供給なし/障害中 notconnect : 未実装
:	:	:
Accumulated running time ^{※2}		
Main	total : 装置の累計稼働時間 critical : 40℃以上の環境下での 装置の累計稼働時間	正常時は累積稼働時間を表示します。 fault : 稼働時間読み込み失敗 **** : 稼働時間読み込み中

「表 8-8 show environment コマンドの表示内容 (P123～P124) の注※1」を訂正します。
[Ver. 11.7.C 以降]

【訂正前】

注※1 入気温度の変移により Warning level を表示します。
温度センサーが 50℃を超えるとソフトウェアが停止します。

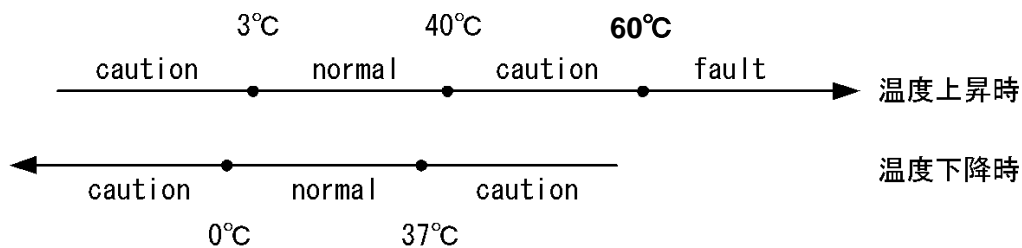
図 8-6 運用環境レベルと温度値



【訂正後】

注※1 入気温度の変移により Warning level を表示します。
温度センサーが 60℃以上になるとソフトウェアが停止します。

図 8-6 運用環境レベルと温度値



(4) reload 【追加】

「応答メッセージ (P127)」に追加します。[Ver. 11. 6. A 以降]

【追加】

メッセージ	内容
another user is executing update command.	ソフトウェアアップデート中または、バックアップファイルのレストア中です。

「注意事項 (P127)」に追加します。[Ver. 11. 6. A 以降]

【追加】

- ・ほかのユーザが **ppupdate** コマンドまたは **restore** コマンドを実行中は、本コマンドを実行できません。実行すると「another user is executing update command.」のメッセージを表示して異常終了します。この場合、時間をおいて再実行してください。
それでも異常終了する場合は、“rm /tmp/ppupdate.exec”を実行してファイルを削除したあと、本コマンドを再実行してください。

(5) show tech-support 【訂正】

「パラメータ ftp (P128)」を訂正します。

【訂正前】

ftp

採取した情報のテキストファイルと MC 内に存在するダンプファイルおよびコアファイルをリモートの FTP サーバに保存します。ダンプファイルおよびコアファイルは一つのバイナリファイルに結合されます。また、本パラメータを指定した場合は採取した情報は画面出力しません。なお、本パラメータを指定した場合は応答メッセージに従って FTP サーバとの接続設定情報を入力してください。

【訂正後】

ftp

採取した情報のテキストファイルと内蔵フラッシュメモリ上に存在するダンプファイルおよびコアファイルをリモートの FTP サーバに保存します。ダンプファイルおよびコアファイルは一つのバイナリファイルに結合されます。また、本パラメータを指定した場合は採取した情報は画面出力しません。なお、本パラメータを指定した場合は応答メッセージに従って FTP サーバとの接続設定情報を入力してください。

「実行例 (P129)」を訂正します。

【訂正前】

● show tech-support ftp の実行例

ハードウェアおよびソフトウェアの状態を示す基本情報を採取し、MC 内のダンプファイル、コアファイルとともに FTP サーバに保存します。なお、ファイル名を"support"に指定します。

【訂正後】

● show tech-support ftp の実行例

ハードウェアおよびソフトウェアの状態を示す基本情報を採取し、内蔵フラッシュメモリ上のダンプファイル、コアファイルとともに FTP サーバに保存します。なお、ファイル名を"support"に指定

します。

(6) *restore* 【追加】

「応答メッセージ (P147)」に追加します。[Ver. 11. 6. A 以降]

【追加】

メッセージ	内容
another user is executing now.	ほかのユーザが <i>restore</i> コマンドまたは <i>ppupdate</i> コマンドを実施中のため、実行できません。
Can't execute.	コマンドを実行できません。再実行してください。

「注意事項 (P147)」に追加します。[Ver. 11. 6. A 以降]

【追加】

- ほかのユーザが *ppupdate* コマンドまたは *restore* コマンドを実行中は、本コマンドを実行できません。実行すると「another user is executing now.」のメッセージを表示して異常終了します。この場合、時間をおいて再実行してください。
それでも異常終了する場合は、“*rm /tmp/ppupdate.exec*”を実行してファイルを削除したあと、本コマンドを再実行してください。

12. ソフトウェアの管理 (P165~P171)

(1) ppupdate 【訂正】【追加】

「応答メッセージ (P167)」を訂正します。[Ver. 11. 6. A 以降]

【訂正前】

メッセージ	内容
another user is executing now.	ほかのユーザがアップデートを実施中のため、実行できません。

【訂正後】

メッセージ	内容
another user is executing now.	ほかのユーザが restore コマンドまたは, ppupdate コマンドを実施中のため、実行できません。

「注意事項 (P167)」に追加します。[Ver. 11. 6. A 以降]

【追加】

- ほかのユーザが ppupdate コマンドまたは restore コマンドを実行中は、本コマンドを実行できません。実行すると「another user is executing now..」のメッセージを表示して異常終了します。この場合、時間をおいて再実行してください。
それでも異常終了する場合は、“rm /tmp/ppupdate.exec”を実行してファイルを削除したあと、本コマンドを再実行してください。

15. イーサネット (P189~P237)

(1) show interfaces 【訂正】

「表 15-3 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T の detail 情報と統計情報表示 (P194～P196)」を訂正します。

【訂正内容】

表 15-3 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T の detail 情報と統計情報表示

表示項目		表示内容	
		詳細情報	意味
:		:	
統計情報	:	:	:
	受信系エラー 統計情報詳細 項目	CRC errors	正しいフレーム長で、かつ FCS チェックで検出された回数※4※5
		Alignment	正しいフレーム長ではなく、かつ FCS チェックで検出された回数※4※6
		Fragments	ショートフレーム（フレーム長 64 オクテット未満）で、かつ FCS エラー、または Alignment エラー発生回数※4※6
		Jabber	ロングフレーム（最大フレーム長を超えたフレーム）で、かつ FCS エラー、または Alignment エラー発生回数※4 0 固定
		Symbol errors	シンボルエラー発生回数
		Short frames	フレーム長未満の packets 受信回数※4
		Long frames	フレーム長を超えた packets 受信回数※4
		Error frames	エラーによって廃棄されたフレームの総数 (Short frames, Fragments, CRC errors, Long frames, Symbol errors の合計値)
:		:	:

注※1 表示する値が 10000 未満の場合、小数点を表示しません。

表示する値が 10000 以上の場合、表示単位が k になり、小数第一位までを表示します。また表示する値が 10000k 以上の場合、表示単位が M になり、小数第一位までを表示します。

注※2 ポート状態が active up, test 以外の場合は、常に off 表示になります。

注※3 ポート状態が active up, test 以外の場合は、常に-表示になります。

注※4 フレーム長とは MAC ヘッダから FCS までを示します。

フレームフォーマットは「コンフィグレーションガイド Vol.1 MAC および LLC 副層制御」を参照してください。

注※5 1000BASE-T で動作している場合、ロングフレーム受信時にもカウントされます。

追加 → 注※6 Alignment と Fragments は同じ値を表示します。

「表 15-6 100BASE-FX/1000BASE-X の detail 情報と統計情報表示 (P200～P203)」を訂正します。

【訂正内容】

表 15-6 100BASE-FX/1000BASE-X の detail 情報と統計情報表示

表示項目		表示内容	
		詳細情報	意味
:		:	
統計情報	:	:	:
	受信系エラー 統計情報詳細 項目	CRC errors	正しいフレーム長で、かつ FCS チェックで検出された回数※4※5
		Symbol errors	シンボルエラー発生回数
		Fragments	ショートフレーム（フレーム長 64 オクテット未満）で、かつ FCS エラー、または Alignment エラー発生回数※4
		Jabber	ロングフレーム（最大フレーム長を超えたフレーム）で、かつ FCS エラー、または Alignment エラー発生回数※4 0 固定
		Short frames	フレーム長未満のパケット受信回数※4
		Long frames	フレーム長を超えたパケット受信回数※4
		Error frames	エラーによって廃棄されたフレームの総数 (Short frames, Fragments, CRC errors, Long frames, Symbol errors の合計値)
	:	:	:

訂正

訂正

訂正

訂正

「表 15-9 10GBASE-R の detail 情報と統計情報表示 (P207～P209)」の注※1 を訂正します。

【訂正前】

注※1 表示する値が 10000 未満の場合、小数点を表示しません。

表示する値が 10000 以上の場合、表示単位が k になり、小数第一位までを表示します。また表示する値が 10000k 以上の場合には表示単位が M になり、小数第一位までを表示します。

【訂正後】

注※1 表示する値が 10000 未満の場合、小数点を表示しません。

表示する値が 10000 以上の場合、次のように表示する値によって表示単位が変わります。

- ・表示する値が 10000 以上の場合、表示単位は k
- ・表示する値が 10000k 以上の場合、表示単位は M
- ・表示する値が 10000M 以上の場合、表示単位は G

この場合、小数点第一位までを表示します。

「表 15-9 10GBASE-R の detail 情報と統計情報表示 (P207～P209)」を訂正します。

【訂正内容】

表 15-9 10GBASE-R の detail 情報と統計情報表示

表示項目		表示内容	
		詳細情報	意味
		:	:
統計情報	:	:	:
	受信系エラー 統計情報詳細 項目	CRC errors	正しいフレーム長で、かつ FCS チェックで検出された回数※4
		Fragments	ショートフレーム（フレーム長 64 オクテット未満）で、かつ FCS エラー、または Alignment エラー発生回数※4
		Jabber	ロングフレーム（最大フレーム長を超えたフレーム）で、かつ FCS エラー、または Alignment エラー発生回数※4
		Symbol errors	シンボルエラー発生回数
		Short frames	フレーム長未満の packets 受信回数※4
		Long frames	フレーム長を超えた packets 受信回数※4
	Error frames	エラーによって廃棄されたフレームの総数 (Short frames, Fragments, CRC errors, Long frames, Symbol errors の合計値)	
:	:	:	

訂正

訂正

(2) show port 【訂正】

「表 15-18 廃棄パケット数の算出に使用する統計項目（P223）」を訂正します。

【訂正前】

表 15-18 廃棄パケット数の算出に使用する統計項目

ポート	統計項目	
	送信	受信
イーサネット	Late collision Excessive collisions Excessive deferral	CRC errors Alignment Fragments Jabber Symbol errors Short frames Long frames

【訂正後】

表 15-18 廃棄パケット数の算出に使用する統計項目

ポート	統計項目	
	送信	受信
イーサネット	Late collision Excessive collisions Excessive deferral	CRC errors Alignment Fragments Symbol errors Short frames Long frames

(3) *activate* 【訂正】

「通信への影響 (P224)」を訂正します。

【訂正前】

〔通信への影響〕

あり

【訂正後】

〔通信への影響〕

当該イーサネットポートを使用した通信を再開します。

(4) *inactivate* 【訂正】

「通信への影響 (P226)」を訂正します。

【訂正前】

〔通信への影響〕

あり

【訂正後】

〔通信への影響〕

当該イーサネットポートを使用した通信ができなくなります。

(5) *test interfaces* 【訂正】【追加】

「通信への影響 (P229)」を訂正します。

【訂正前】

〔通信への影響〕

なし

【訂正後】

〔通信への影響〕

当該イーサネットポートを使用した通信ができなくなります。

「注意事項 (P231)」に追加します。

【追加】

- ・回線テスト実行中に、トランシーバを挿入または抜去した場合、テスト結果の全てのカウント数が 0 と表示される場合があります。またトランシーバを挿入または抜去する際、挿抜を示すログメッセージが表示される前に回線テストを実行すると、挿抜を示すログメッセージが出力されない場合があります。いずれの場合も **no test interface** コマンドを実行後に正常な状態に回復しているため、そのまま運用可能です。

(6) *no test interfaces* 【訂正】

「表 15-24 回線テスト (10BASE-T, 100BASE-TX, 1000BASE-T) 実行結果の表示内容 (P232～P233)」の脚注を訂正します。

【訂正前】

注※3 ループコネクタが正しくささっている場合は、回線テスト用パケットが装置内で滞留している可能性があります。回線テストを実行する装置のパケット中継負荷が下がっていることを確認してから再実行してください。

【訂正後】

注※3 ループコネクタが正しくささっている場合およびモジュール内部ループバックテストの場合は、回線テスト用パケットが装置内で滞留している可能性があります。回線テストを実行する装置のパケット中継負荷が下がっていることを確認してから再実行してください。複数回回線テストを再実行してもカウントアップする場合、装置を交換してください。

「通信への影響 (P236)」を訂正します。

【訂正前】

[通信への影響]

なし

【訂正後】

[通信への影響]

当該イーサネットポートを使用した通信を再開します。

16. リンクアグリゲーション (P239～P261)

(1) *show channel-group* 【訂正】

「注意事項 (P250)」を訂正します。

【訂正前】

[注意事項]

なし

【訂正後】

[注意事項]

スタンバイリンク機能をリンクダウンモードで使用すると、運用する最大ポート数を越えた分が待機用ポートになり、Reason(障害要因)にはポートの状態に関係なく **Standby** が表示されます。待機用ポートで障害が発生していた場合は、そのポートが待機用ポートとなった旨のログは出力しませんが、障害の回復後は待機用ポートとして動作します。

17. MAC アドレステーブル (P263~P269)

(1) *clear mac-address-table* 【追加】

「表 17-4 *clear mac-address-table* コマンドの応答メッセージ一覧 (P269)」に追加します。

【追加】

表 17-4 *clear mac-address-table* コマンドの応答メッセージ一覧

メッセージ	内容
Command is accepted, but it takes time for setting to hardware.	コマンドは実行されましたが、ハードウェアへの反映に時間がかかっています。(再実行の必要はありません。)

18. VLAN (P271~P289)

(1) *restart vlan* 【訂正】

「図 18-14 VLAN プログラム再起動 (P287)」を訂正します。

【訂正前】

図 18-14 VLAN プログラム再起動

```
> restart vlan
L2 Manager and L2 Mac Manager restart OK? (y/n): y
>
```

【訂正後】

図 18-14 VLAN プログラム再起動

```
> restart vlan
VLAN Program restart OK? (y/n): y
>
```

22. IPv4・ARP・ICMP (P375～P404)

(1) *show netstat(netstat)* 【訂正】

「注意事項 (P393)」を訂正します。

【訂正前】

[注意事項]

パラメータ *wait* を付けて実行した場合、本コマンドの終了は [Ctrl + C] で行います。

【訂正後】

[注意事項]

- ・パラメータ *wait* を付けて実行した場合、本コマンドの終了は [Ctrl + C] で行います。
- ・*show netstat(netstat)* コマンドを実行時に、コマンドをエラー終了して障害退避情報ファイルを出力する場合があります。この場合は、再度 *show netstat(netstat)* コマンドを実行してください。

23. IPv6・NDP・ICMP6 (P405～P436)

(1) *show netstat(netstat)* 【訂正】

「注意事項 (P424)」を訂正します。

【訂正前】

[注意事項]

パラメータ *wait* を付けて実行した場合、本コマンドの終了は [Ctrl + C] で行います。

【訂正後】

[注意事項]

- ・パラメータ *wait* を付けて実行した場合、本コマンドの終了は [Ctrl + C] で行います。
- ・*show netstat(netstat)* コマンドを実行時に、コマンドをエラー終了して障害退避情報ファイルを出力する場合があります。この場合は、再度 *show netstat(netstat)* コマンドを実行してください。

(2) *traceroute ipv6* 【訂正】

「numeric パラメータ (P434)」を訂正します。

【訂正前】

numeric

ゲートウェイのアドレスをホスト名と IPv6 アドレスではなく、IPv6 アドレスだけで表示します。

本パラメータ省略時の動作

ホストの IPv6 アドレスを名前に変換して表示します。

【訂正後】

numeric

ゲートウェイのアドレスをホスト名ではなく、IPv6 アドレスだけで表示します。

本パラメータ省略時の動作

ホストの IPv6 アドレスを名前に変換して表示します。

「注意事項 (P436)」を訂正します。

【訂正前】

- ・本装置より *traceroute ipv6* コマンド実行中に、本装置上のほかのアプリケーションに対して大量の ICMPv6 エラーメッセージが発行された場合、*traceroute ipv6* コマンドが無応答になったように見えることがあります。そのような場合は、ICMPv6 エラーメッセージの要因となっているほかのアプリケーションを終了させてから *traceroute ipv6* を実行するようにしてください。なお、*verbose* オプションを指定して実行すると、このような場合には、"failed to get upper layer header" のメッセージが表示されます。

【訂正後】

- ・本装置より *traceroute ipv6* コマンド実行中に、本装置に対して継続的に ICMPv6 メッセージが発行された場合、*traceroute ipv6* コマンドが無応答になったように見えることがあります。そのような場合は、*verbose* オプションを指定して実行することで、本装置に対して継続的に発行されている ICMPv6 メッセージを確認することができます。

24. DHCP サーバ機能 (P437~P453)

(1) *clear ip dhcp binding* 【訂正】

「通信への影響 (P440)」を訂正します。

【訂正前】

[通信への影響]

なし

【訂正後】

[通信への影響]

DynamicDNS 連携を設定している場合、同時に DynamicDNS サーバから対応するエントリレコードが削除(DNS 更新)されるため、名前解決ができなくなります。

(2) restart dhcp 【訂正】

「通信への影響（P449）」を訂正します。

【訂正前】

〔通信への影響〕

なし

【訂正後】

〔通信への影響〕

一時的に DHCP パケットの送受信が停止し、IP アドレスの配布や更新・解放などができなくなります。

26. QoS (P463～P475)**(1) show qos queueing 【訂正】**

「表示説明（P474）」の注釈を訂正します。

【訂正前】

注※ 5

次に示す場合は、キューイング優先度の変更していなくても"tail drop"がカウントアップすることがあります。

- ・送信キュー、パケットバッファともに空き領域が少ないときに、複数ポートから同時にパケットを受信して、受信パケットを格納する空きが無くなった場合
- ・キューイング優先度にデフォルト値以外が適用される一部の制御パケットを受信した場合

【訂正後】

注※ 5

次に示す場合でも"tail drop"がカウントアップすることがあります。

- ・複数ポートから同時にパケットを受信し、同一のポートへ送信する際、送信ポートのパケットバッファに受信パケットを格納するだけの空きが無い場合
- ・キューイング優先度にデフォルト値以外が適用される一部の制御パケットを受信した場合

28. Web 認証 (P515～P566)**(1) commit web-authentication 【追加】**

「注意事項（P550～P551）」に追加します。

【追加】

本コマンドを実行中に中断した場合、Web 認証 DB の情報は書き換えられません。この場合、本コマンドを再度実行して Web 認証 DB の情報を書き換えてください。

(2) *load web-authentication* 【追加】

「注意事項（P555）」に追加します。

【追加】

本コマンドを実行中に中断した場合、Web 認証 DB の情報は書き換えられません。この場合、本コマンドを再度実行して Web 認証 DB の情報を書き換えてください。

(3) *set web-authentication html-files* 【追加】

「注意事項（P562）」に追加します。

【追加】

- ・ダイナミック VLAN モードまたはレガシーモードにおいて、loginOK.html ファイルに、ほかのファイルを関連付けしたとき、ログイン成功画面が正常に表示されない場合があります。

29. MAC 認証（P567～P606）**(1) *commit mac-authentication* 【追加】**

「注意事項（P596）」に追加します。

【追加】

本コマンドを実行中に中断した場合、MAC 認証 DB の情報は書き換えられません。この場合、本コマンドを再度実行して MAC 認証 DB の情報を書き換えてください。

(2) *load mac-authentication* 【追加】

「注意事項（P602）」に追加します。

【追加】

本コマンドを実行中に中断した場合、MAC 認証 DB の情報は書き換えられません。この場合、本コマンドを再度実行して MAC 認証 DB の情報を書き換えてください。

32. GSRP (P659～P686)

(1) show gsrp 【訂正】

「表 32-2 VLAN グループ ID 指定時の GSRP 情報表示項目 (P663)」を訂正します。

【訂正前】

表 32-2 VLAN グループ ID 指定時の GSRP 情報表示項目

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
Member Port	VLAN グループに設定されている VLAN に属しているポート	VLAN グループに該当するポートがない場合、または disable 状態の場合は "-" を表示します。
Active Port	アクティブポート	VLAN グループに該当するポートがない場合、または disable 状態の場合は "-" を表示します。 なお、リングポートはアクティブポートに含めません。
:	:	:

【訂正後】

表 32-2 VLAN グループ ID 指定時の GSRP 情報表示項目

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
Member Port	VLAN グループに設定されている VLAN に属しているポート	VLAN グループに該当するポートがない場合、または disable 状態の場合は "-" を表示します。 チャンネルグループは集約ポートのリストに展開して表示します。
Active Port	アクティブポート	VLAN グループに該当するポートがない場合、または disable 状態の場合は "-" を表示します。 チャンネルグループは集約ポートのリストに展開して表示します。 なお、リングポートはアクティブポートに含めません。
:	:	:

「表 32-3 GSRP 詳細情報の表示項目（P666）」を訂正します。

【訂正前】

表 32-3 GSRP 詳細情報の表示項目

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
Port Up Delay	回線アップ時のアクティブポート のカウンタ対象へ反映するまでの 遅延時間	1～43200（秒）または infinity （infinity は無限を指します。）
:	:	:

【訂正後】

表 32-3 GSRP 詳細情報の表示項目

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
Port Up Delay	回線アップ時のアクティブポート のカウンタ対象へ反映するまでの 遅延時間	0～43200（秒）または infinity （infinity は無限を指します。）
:	:	:

「表 32-4 ポート指定時の GSRP 情報の表示内容 (P668)」を訂正します。

【訂正前】

表 32-4 ポート指定時の GSRP 情報の表示内容

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
TxFram	送信した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~4294967295
RxFram	受信した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~4294967295
Discard Frame	受信時に廃棄した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~262140 (最大値は各廃棄要因の最大数 65535×要素数 4 を指します。)

【訂正後】

表 32-4 ポート指定時の GSRP 情報の表示内容

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
TxFram	送信した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~4294967295 同一チャネルグループのポートの場合、同じ値になります。
RxFram	受信した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~4294967295 同一チャネルグループのポートの場合、同じ値になります。
Discard Frame	受信時に廃棄した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~262140 (最大値は各廃棄要因の最大数 65535×要素数 4 を指します。) 同一チャネルグループのポートの場合、同じ値になります。

「表 32-5 ポート指定時の GSRP 情報の詳細表示内容（P669）」を訂正します。

【訂正前】

表 32-5 ポート指定時の GSRP 情報の詳細表示内容

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
TxFram	送信した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~4294967295
RxFram	受信した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~4294967295
Discard Frame	受信時に廃棄した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~262140 (最大値は各廃棄要因の最大数 65535×要素数 4 を指します。)
:	:	:

【訂正後】

表 32-5 ポート指定時の GSRP 情報の詳細表示内容

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
TxFram	送信した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~4294967295 同一チャネルグループのポートの場合、同じ値になります。
RxFram	受信した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~4294967295 同一チャネルグループのポートの場合、同じ値になります。
Discard Frame	受信時に廃棄した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~262140 (最大値は各廃棄要因の最大数 65535×要素数 4 を指します。) 同一チャネルグループのポートの場合、同じ値になります。
:	:	:

35. L2 ループ検知 (P715~P729)

(1) show loop-detection logging 【訂正】

「実行例 (P722)」を訂正します。

【訂正内容】

[実行例]

L2 ループ検知フレームの受信ログ情報を表示します。

図 35-3 L2 ループ検知フレームの受信ログ情報の表示

```
> show loop-detection logging
Date 2008/04/21 12:10:10 UTC
2008/04/21 12:10:10 0/1 Source: 0/3 Vlan: 4090 Inactive
2008/04/21 12:10:09 0/1 Source: 0/3 Vlan: 1
2008/04/21 12:10:08 0/1 Source: 0/3 Vlan: 4090
2008/04/21 12:10:07 0/3 Source: 0/1 Vlan: 4090
2008/04/21 12:10:06 0/3 Source: 0/1 Vlan: 4090
2008/04/20 05:10:10 CH:32 Source: CH:32 Vlan: 4090 Uplink Inactive
2008/04/10 04:10:10 0/20 Source: CH:32 Vlan: 4090
2008/03/21 03:10:10 0/20 Source: 0/12 Vlan: 4095
2008/03/21 02:12:50 0/20 Source: 0/12 Vlan: 4095
2008/03/21 02:12:10 0/20 Source: 0/12 Vlan: 4095
2008/03/21 02:12:09 0/20 Source: 0/12 Vlan: 12
2007/09/05 20:00:00 CH:32 Source: 0/12 Vlan: 12 Uplink
2007/09/05 00:00:00 CH:32 Source: 0/12 Vlan: 12 Uplink
>
```

削除



5. メッセージ・ログレファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S005-D0) の訂正内容

2. 装置関連の障害およびイベント情報 (P11~P90)

(1) 2.3.5 イベント発生部位= VLAN (L2 ループ検知) 【訂正】

「表 2-7 イベント発生部位=VLAN (L2 ループ検知) の装置関連の障害およびイベント情報 (P41)」を訂正します。

【訂正内容】

表 2-7 イベント発生部位=VLAN (L2 ループ検知) の装置関連の障害およびイベント情報

項番	イベントレベル	イベント発生部位	メッセージ識別子	付加情報上位 4 桁	メッセージテキスト
	内容				
	(省略)				
5	E4	VLAN	20800005	0700	L2LD : Port(<nif no.>/<port no.>) loop detection from port(<nif no.>/<port no.>).
追加	ループ障害を検出しました。 ループ障害検出ログ(20800005~20800008)の出力後 1 分間は、同一ポートあるいはチャネルグループでループ障害検出ログを出力しません。 [メッセージテキストの表示説明] <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] ネットワーク構成を確認してください。				
6	E4	VLAN	20800006	0700	L2LD : Port(<nif no.>/<port no.>) loop detection from ChGr(<channel group number>).
追加	ループ障害を検出しました。 ループ障害検出ログ(20800005~20800008)の出力後 1 分間は、同一ポートあるいはチャネルグループでループ障害検出ログを出力しません。 [メッセージテキストの表示説明] <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャネルグループ番号 [対応] ネットワーク構成を確認してください。				
7	E4	VLAN	20800007	0700	L2LD : ChGr(<channel group number>) loop detection from port(<nif no.>/<port no.>).
追加	ループ障害を検出しました。 ループ障害検出ログ(20800005~20800008)の出力後 1 分間は、同一ポートあるいはチャネルグループでループ障害検出ログを出力しません。 [メッセージテキストの表示説明] <channel group number> チャネルグループ番号 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] ネットワーク構成を確認してください。				

項番	イベントレベル	イベント発生部位	メッセージ識別子	付加情報上位 4 桁	メッセージテキスト
8	内容				
	E4	VLAN	20800008	0700	L2LD : ChGr(<channel group number>) loop detection from ChGr(<channel group number>).
追加	ループ障害を検出しました。				
	ループ障害検出ログ(20800005～20800008)の出力後 1 分間は、同一ポートあるいはチャネルグループでループ障害検出ログを出力しません。 [メッセージテキストの表示説明] <channel group number> チャネルグループ番号 [対応] ネットワーク構成を確認してください。				
	(省略)				

(2) 2.4.1 イベント発生部位=SOFTWARE【訂正】

「表 2-10 イベント発生部位=SOFTWARE の装置関連の障害およびイベント情報（P49～P71）」を訂正します。

【訂正前】

表 2-10 イベント発生部位=SOFTWARE の装置関連の障害およびイベント情報

項番	イベントレベル	イベント発生部位	メッセージ識別子	付加情報上位 4 桁	メッセージテキスト
18	内容				
	E3	SOFTWARE	01700502	1001	CPU overloaded. There is the possibility of failure in responding to user command input or sending notification to SNMP agent.
	ユーザコマンド入力に対する応答が、SNMP エージェントに対する通知が失敗したかもしれません。CPU が過負荷状態である可能性があります。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] 必要なら再度コマンドの入力または MIB の取得を行ってください。				

【訂正後】

表 2-10 イベント発生部位=SOFTWARE の装置関連の障害およびイベント情報

項 番	イベント レベル	イベント 発生部位	メッセージ 識別子	付加情報 上位 4 桁	メッセージテキスト
内容					
18	E3	SOFTWARE	01700502	1001	CPU overloaded. There is the possibility of software failure in responding to user command input or sending notification to SNMP agent.
<p>ユーザコマンド入力に対する応答が、SNMP エージェントに対する通知が失敗したかもしれません。 CPU が過負荷状態である可能性があります。</p> <p>[メッセージテキストの表示説明]</p> <p>なし。</p> <p>[対応]</p> <p>必要なら再度コマンドの入力または MIB の取得を行ってください。</p>					

(3) 2.5.1 イベント発生部位=PORT【訂正】

「表 2-12 イベント発生部位=PORT の装置関連の障害およびイベント情報 (P74~P80)」を訂正します。

【訂正前】

表 2-12 イベント発生部位=PORT の装置関連の障害およびイベント情報

項番	イベントレベル	イベント発生部位	メッセージ識別子	付加情報上位 4 桁	メッセージテキスト
内容					
33	E8	PORT	25020401	1350	Port restarted, but not recovered from hardware failure.
ポート部分の再起動を行いました。ポート部分のハードウェア障害から回復しませんでした。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] 未使用のポートを使用してください。障害となったポートを再度使用する場合は、装置を交換してください。トランシーバを実装している場合は、トランシーバがしっかり実装されているか確認してください。					

【訂正後】

表 2-12 イベント発生部位=PORT の装置関連の障害およびイベント情報

項番	イベントレベル	イベント発生部位	メッセージ識別子	付加情報上位 4 桁	メッセージテキスト
内容					
33	E8	PORT	25020401	1350	Port restarted, but not recovered from hardware failure.
ポート部分の再起動を行いました。ポート部分のハードウェア障害から回復しませんでした。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] トランシーバ使用時 1. 該当ポートで inactivate コマンドを実行後、トランシーバをいったん抜いてから再度挿入し、 activate コマンドを実行してください。 2. 回線をリンクアップさせることで、障害から復旧するか確認してください。 3. 2で回復しない場合、 inactivate コマンドを実行後、トランシーバを交換し、 activate コマンドを実行してください。 4. 回線をリンクアップさせることで、障害から復旧するか確認してください。 5. 4で回復しない場合、未使用のポートを使用してください。障害となったポートを再度使用する場合は、装置を交換してください。 トランシーバ未使用時 未使用のポートを使用してください。障害となったポートを再度使用する場合は、装置を交換してください。					

(4) 2. 6. 1 イベント発生部位=PS【追加】

「表 2-14 イベント発生部位=PS の装置関連の障害およびイベント情報 (P86)」に追加します。[Ver. 11. 5. B 以降]

【追加】

表 2-14 イベント発生部位=PS の装置関連の障害およびイベント情報

項 番	イベント レベル	イベント 発生部位	メッセージ 識別子	付加情報 上位 4 桁	メッセージテキスト
内容					
5	E8	PS	00000004	2200	Error detected on EPU.
EPU で障害を検出しました。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] 1. EPU に搭載している電源モジュールが半挿し状態の可能性があります。電源モジュールを正しく挿入してください。 2. EPU または EPU に搭載の電源モジュールが故障の場合は交換してください。					
6	R8	PS	00000004	2200	EPU recovered from error.
EPU は正常状態になりました。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] なし。					
7	R8	PS	00000005	2200	EPU was removed.
EPU が抜去されました。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] なし。					

(5) 2. 6. 2 イベント発生部位=EQUIPMENT【訂正】

「表 2-15 イベント発生部位=EQUIPMENT の装置関連の障害およびイベント情報（P87～P90）」を訂正します。

【訂正内容】

表 2-15 イベント発生部位=EQUIPMENT の装置関連の障害およびイベント情報

項 番	イベント レベル	イベント 発生部位	メッセージ 識別子	付加情報 上位 4 桁	メッセージテキスト
内容					
3	E3	EQUIPM ENT	00020107	2101	The temperature of hardware came down from the warning level.
<p>ハードウェアの温度が、コンフィグレーションコマンド system temperature-warning-level で設定した温度より 3℃以上下がりました。 ← 訂正</p> <p>[メッセージテキストの表示説明]</p> <p>なし。</p> <p>[対応]</p> <p>なし。</p>					
8	E7	EQUIPM ENT	00020102	2101	Hardware exceeded tolerance level of low temperature(<temperature> degree). Check room temperature.
<p>ハードウェアの温度が許容温度範囲を下回りました（<temperature> ℃以下）。 ← 訂正</p> <p>[メッセージテキストの表示説明]</p> <p><temperature> 0</p> <p>[対応]</p> <p>1. 装置周辺の環境（室温など）を確認し、改善してください。</p> <p>2. ファンを確認し、障害があれば装置を交換してください。</p>					
9	E7	EQUIPM ENT	00020103	2101	Hardware exceeded tolerance level of high temperature (<temperature> degree). Check that room temperature and the fan is operating normally.
<p>ハードウェアの温度が許容温度範囲を上回りました（<temperature> ℃以上）。 ← 訂正</p> <p>[メッセージテキストの表示説明]</p> <p><temperature> 40</p> <p>[対応]</p> <p>1. 装置周辺の環境（通風、熱源の有無など）を確認し、改善してください。</p> <p>2. ファンを確認し、障害があれば装置を交換してください。</p>					
13	E9	EQUIPM ENT	00020105	2101	Hardware is becoming high temperature which give damage to this system. (<temperature> degree).
<p>ハードウェアの温度は、装置の運用に致命的な障害を与える温度値（<temperature>℃以上）に達しました。</p> <p>[メッセージテキストの表示説明]</p> <p><temperature> 検出した温度値（60℃以上） ← 訂正</p> <p>[対応]</p> <p>1. 装置周辺の環境（通風、熱源の有無など）を確認し、改善してください。</p> <p>2. ファンを確認し、障害があれば装置を交換してください。</p>					

項 番	イベント レベル	イベント 発生部位	メッセージ 識別子	付加情報 上位 4 桁	メッセージテキスト
内容					
16	R8	EQUIPM ENT	00000001	2102	FAN is normal.
<p>表示されたファンは正常状態になりました。</p> <p>付加情報でその他のファンの状態を識別できます。</p> <p>付加情報=2102:ABCD*****</p> <p>*は不定値です。無視してください。</p> <p>ABCD はファン番号に対応します。ABCD に 1 を表示した FAN が正常状態に復帰した FAN です。</p> <p>A=FAN4, B=FAN3, C=FAN2, D=FAN1 ← 訂正</p> <p>[メッセージテキストの表示説明]</p> <p>なし。</p> <p>[対応]</p> <p>なし。</p>					

6. MIB レファレンス (Ver. 11.5 対応版) (AX24S-S006-D0) の訂正内容

2. 標準 MIB (RFC 準拠および IETF ドラフト MIB) (P13~P117)

(1) 2.2.1 interfaces グループ(イーサネットの場合) 【訂正】

「表 2-2 interfaces グループの実装仕様 (イーサネットの場合) (P15~P18)」を訂正します。

【訂正前】

表 2-2 interfaces グループの実装仕様 (イーサネットの場合)

項番	オブジェクト識別子	アクセス	実装仕様	実装有無
4	ifIndex {ifEntry 1}	R/O	<p>[規格] このインタフェースを識別するための番号。1 ~ ifNumber までの値。</p> <p>[実装] このインタフェースを識別するための番号。インタフェースに関するコンフィグレーションを変更すると、このオブジェクトの値も変わります。</p> <p>ifIndex の割り当て方法は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポート : 100+ ((NIF 番号-1) * 50) + ポート番号 - 1 (NIF 番号, ポート番号は 1 から) ・リンクアグリゲーション : 1000+ チャネルグループ番号 ・VLAN : デフォルト VLAN の場合は 3, その他は 1200+VLAN ID 	●
	:	:	:	
23	ifOutErrors {ifEntry 20}	R/O	<p>[規格] エラーが原因で送信できなかったパケットの数。</p> <p>[実装] インタフェースによる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートの ifIndex の場合 : 規格に同じ。 ・VLAN の ifIndex の場合 : 0 固定。 ・リンクアグリゲーションの ifIndex の場合 : 規格に同じ。 	●

【訂正後】

表 2-2 interfaces グループの実装仕様（イーサネットの場合）

項 番	オブジェクト識別子	ア ク セ ス	実装仕様	実装 有無
4	ifIndex {ifEntry 1}	R/O	<p>[規格] このインタフェースを識別するための番号。1～ifNumber までの値。</p> <p>[実装] このインタフェースを識別するための番号。ifIndex の割り当て方法は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポート：100+（（NIF 番号-1）*50）+ ポート番号-1（NIF 番号，ポート番号は1 から） ・リンクアグリゲーション：1000+ チャネルグループ番号 ・VLAN：デフォルト VLAN の場合は3，その他は1200+VLAN ID 	●
	:	:	:	
23	ifOutErrors {ifEntry 20}	R/O	<p>[規格] エラーが原因で送信できなかったパケットの数。</p> <p>[実装] インタフェースによる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートの ifIndex の場合：gigabitethernet の場合，規格に同じ。tengigabitethernet の場合，0 固定 ・VLAN の ifIndex の場合：0 固定。 ・リンクアグリゲーションの ifIndex の場合：規格に同じ。 	●

(2) 2.2.2 interfaces グループ（その他の場合）【訂正】

「表 2-3 interfaces グループの実装仕様（その他の場合）(P19)」を訂正します。

【訂正前】

表 2-3 interfaces グループの実装仕様（その他の場合）

項番	オブジェクト識別子	アクセス	実装仕様	実装有無
4	ifIndex {ifEntry 1}	R/O	<p>[規格] このインタフェースを識別するための番号。1～ifNumber までの値。</p> <p>[実装] このインタフェースを識別するための番号。インタフェースに関するコンフィグレーションを変更すると、このオブジェクトの値も変わります。</p> <p>ifIndex の割り当て方法は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローカルループバック：1 	●

【訂正後】

表 2-3 interfaces グループの実装仕様（その他の場合）

項番	オブジェクト識別子	アクセス	実装仕様	実装有無
4	ifIndex {ifEntry 1}	R/O	<p>[規格] このインタフェースを識別するための番号。1～ifNumber までの値。</p> <p>[実装] このインタフェースを識別するための番号。</p> <p>ifIndex の割り当て方法は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローカルループバック：1 	●

(3) 2.10.1 Ethernet Statistics グループ【訂正】

「表 2-15 Ethernet Statistics グループの実装仕様 (P37～P39)」を訂正します。

【訂正前】

表 2-15 Ethernet Statistics グループの実装仕様

項番	オブジェクト識別子	アクセス	実装仕様	実装有無
15	etherStatsCollisions {etherStatsEntry 13}	R/O	[規格] コリジョン数。 [実装] 規格に同じ。	●

【訂正前】

表 2-15 Ethernet Statistics グループの実装仕様

項番	オブジェクト識別子	アクセス	実装仕様	実装有無
15	etherStatsCollisions {etherStatsEntry 13}	R/O	[規格] コリジョン数。 [実装] gigabitethernet:規格に同じ tengigabitethernet:0 固定	●

(4) 2.10.3 Ethernet History グループ【訂正】

「表 2-17 Ethernet History グループの実装仕様 (P40～P42)」を訂正します。

【訂正前】

表 2-17 Ethernet History グループの実装仕様

項番	オブジェクト識別子	アクセス	実装仕様	実装有無
16	etherHistoryCollisions {etherHistoryEntry 14}	R/O	[規格] 特定時間内でのコリジョン数。 [実装] 規格に同じ。	●

【訂正前】

表 2-17 Ethernet History グループの実装仕様

項番	オブジェクト識別子	アクセス	実装仕様	実装有無
16	etherHistoryCollisions {etherHistoryEntry 14}	R/O	[規格] 特定時間内でのコリジョン数。 [実装] gigabitethernet:規格に同じ tengigabitethernet:0 固定	●

(5) 2. 15. 2 dot3adAggPort グループ【訂正】

「表 2-33 dot3adAggPort グループの実装仕様 (P72～P76)」を訂正します。

【訂正内容】

表 2-33 dot3adAggPort グループの実装仕様

項 番	オブジェクト識別子	ア ク セ ス	実装仕様	実装 有無
：	：	：	：	：
11	dot3adAggPortPartnerOperSystemID {dot3adAggPortEntry 9}	R/O	[規格]プロトコルパートナーのシステム ID の操作上の値。 [実装]規格と同じ。	● 訂正
：	：	：	：	：
40	dot3adAggPortDebugLastRxTime {dot3adAggPortDebugEntry 2}	R/O	[規格]最後に AggregationPort が LACPDU を受信したときの aTimeSinceSystemReset の値。 [実装]規格と同じ。	● 訂正
41	dot3adAggPortDebugMuxState {dot3adAggPortDebugEntry 3}	R/O	[規格]AggregationPort に対する Mux ステートマシンの状態。 <ul style="list-style-type: none"> • detached (1) • waiting (2) • attached (3) • collecting (4) • distributing (5) • collecting_distributing (6) ← 訂正 [実装]規格と同じ。	●
：	：	：	：	：

3. プライベート MIB (P119~P183)

(1) 3. 1. 2 axsQoS グループ【訂正】【追加】

「表 3-2 axsEtherTxQoS グループの実装仕様（イーサネットインタフェースの QoS 統計情報）（P121~P122）」を訂正します。[Ver. 11. 7. A 以降]

【訂正前】

表 3-2 axsEtherTxQoS グループの実装仕様（イーサネットインタフェースの QoS 統計情報）

項番	オブジェクト識別子	SYNTAX	アクセス	実装仕様	実装有無
5	axsEtherTxQoSStatsLimit Qlen {axsEtherTxQoSStatsEntry 3}	INTEGER	R/O	該当インタフェースのポート送信キューの出力優先度キュー長の限界値を示します。	●

【訂正後】

表 3-2 axsEtherTxQoS グループの実装仕様（イーサネットインタフェースの QoS 統計情報）

項番	オブジェクト識別子	SYNTAX	アクセス	実装仕様	実装有無
5	axsEtherTxQoSStatsLimit Qlen {axsEtherTxQoSStatsEntry 3}	INTEGER	R/O	該当インタフェースのポート送信キューの出力優先度キュー長の限界値を示します。 ※1	●

注※1 該当ポート内の全キュー内での最も大きい最大キュー長を応答します。

「(2)axsToCpuQoS グループ (P122)」を追加します。[Ver. 11. 7. A 以降]

【追加】

(2) axsToCpuQoS グループ

(a) 識別子

axsStats OBJECT IDENTIFIER ::= {axsMib 1}

axsQoS OBJECT IDENTIFIER ::= {axsStats 6}

axsToCpuQoS OBJECT IDENTIFIER ::= {axsQoS 11}

オブジェクト ID 値 1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11

(b) 実装仕様

axsToCpuQoS グループの実装仕様を次の表に示します。

表 3-3 axsToCpuQoS グループの実装仕様 (CPU への送信キューの QoS 統計情報)

項 番	オブジェクト識別子	SYNTAX	ア ク セ ス	実装仕様	実装 有無
1	axsToCpuQoSStatsTable {axsToCpuQoS 1}	NOT-ACC ESSIBLE	NA	QoS 統計情報の CPU への送信キューの テーブル情報。	●
2	axsToCpuQoSStatsEntry {axsToCpuQoSStatsTable 1}	NOT-ACC ESSIBLE	NA	CPU への送信キューの QoS 統計情報に 関するエントリ。 [index] {axsToCpuQoSStatsIndex}	●
3	axsToCpuQoSStatsIndex {axsToCpuQoSStatsEntry 1}	NOT-ACC ESSIBLE	NA	取得対象の CPU への送信キューが存在 する部位内の番号を示します。 ・ 1 固定	▲
4	axsToCpuQoSStatsMaxQnu m {axsToCpuQoSStatsEntry 2}	INTEGER	R/O	CPU への送信キューのキュー数の最大 値を示します。	●
5	axsToCpuQoSStatsLimitQl en { axsToCpuQoSStatsEntry 3}	INTEGER	R/O	CPU への送信キュー内当該キューの出 力優先度キュー長の限界値を示します。 ※ 1	●
6	axsToCpuQoSStatsTotalOu tFrames {axsToCpuQoSStatsEntry 4}	Counter	R/O	CPU への送信キューの総送信フレーム 数を示します。 ・ 0 固定	▲
7	axsToCpuQoSStatsTotalOu tBytesHigh {axsToCpuQoSStatsEntry 5}	Counter	R/O	CPU への送信キューの総送信バイト数 (上位 4 バイト)を示します。バイト数に FCS は含みません。 ・ 0 固定	▲
8	axsToCpuQoSStatsTotalOu tBytesLow {axsToCpuQoSStatsEntry 6}	Counter	R/O	CPU への送信キューの総送信バイト数 (下位 4 バイト)を示します。バイト数に FCS は含みません。 ・ 0 固定	▲
9	axsToCpuQoSStatsTotalDis cardFrames {axsToCpuQoSStatsEntry 7}	Counter	R/O	CPU への送信キューの総廃棄フレーム 数を示します。	●
10	axsToCpuQoSStatsQueueT able { axsToCpuQoS 2}	NOT-ACC ESSIBLE	NA	CPU への送信キューの出力優先度キュー ごとの QoS 統計情報のテーブル情報。	●
11	axsToCpuQoSStatsQueueE ntry {axsToCpuQoSStatsQueueT able 1}	NOT-ACC ESSIBLE	NA	CPU への送信キューの出力優先度キュー ごとの QoS 統計情報に関するエント リ。 [index] { axsToCpuQoSStatsQueueIndex, axsToCpuQoSStatsQueueQueIndex}	●
12	axsToCpuQoSStatsQueueIn dex {axsToCpuQoSStatsQueue Entry 1}	NOT-ACC ESSIBLE	NA	取得対象の CPU への送信キューが存在 する部位内の番号を示します。 ・ 1 固定	▲
13	axsToCpuQoSStatsQueueQ ueIndex {axsToCpuQoSStatsQueue Entry 2}	NOT-ACC ESSIBLE	NA	このテーブルのエントリを識別するイン デックス値を示します。 1 ~ axsToCpuQoSStatsMaxQnum ま での値。	●

14	axsToCpuQoSStatsQueueQlen {axsToCpuQoSStatsQueueEntry 3}	INTEGER	R/O	情報採取時の CPU への送信キューの出力優先度キュー長を示します。	●
15	axsToCpuQoSStatsQueueMaxQlen {axsToCpuQoSStatsQueueEntry 4}	INTEGER	R/O	この統計情報を消去もしくは初期化してからの CPU への送信キュー内当該キューの最大の出力優先度キュー長を示します。 ・ 0 固定	▲
16	axsToCpuQoSStatsQueueDiscardFramesClass1 {axsToCpuQoSStatsQueueEntry 5}	Counter64	R/O	CPU への送信キュー内当該キューの該当出力優先度キューの廃棄クラス 1 での廃棄フレーム数を示します。 ・ 0 固定	▲
17	axsToCpuQoSStatsQueueDiscardFramesClass2 {axsToCpuQoSStatsQueueEntry 6}	Counter64	R/O	CPU への送信キュー内当該キューの該当出力優先度キューの廃棄クラス 2 での廃棄フレーム数を示します。 ・ 0 固定	▲
18	axsToCpuQoSStatsQueueDiscardFramesClass3 {axsToCpuQoSStatsQueueEntry 7}	Counter64	R/O	CPU への送信キュー内当該キューの該当出力優先度キューの廃棄クラス 3 での廃棄フレーム数を示します。 ・ 0 固定	▲
19	axsToCpuQoSStatsQueueDiscardFramesClass4 {axsToCpuQoSStatsQueueEntry 8}	Counter64	R/O	CPU への送信キュー内当該キューの該当出力優先度キューの廃棄クラス 4 での廃棄フレーム数を示します。 ・ 0 固定	▲

注※ 1 該当 CPU 送信キューの全キュー内での最も大きい最大キュー長を応答します。

(2) 3. 14. 1 ax2430sChassis グループの実装仕様 (筐体情報) 【訂正】

「表 3-38 ax2430sChassis グループの実装仕様 (筐体情報) (P174～P175)」を訂正します。[Ver. 11. 5. B 以降]

【訂正内容】

表 3-38 ax2430sChassis グループの実装仕様 (筐体情報)

項番	オブジェクト識別子	SYNTAX	アクセス	実装仕様	実装有無
27	ax2430sTotalAccumRunTime {ax2430sChassisEntry 24}	INTEGER	R/O	装置の運用を開始してからの累計稼働時間。 稼働時間の読み込み中または読み込みに失敗した場合、-1 で応答します。	●
28	ax2430sCriticalAccumRunTime {ax2430sChassisEntry 25}	INTEGER	R/O	摂氏 40 度以上の環境下での稼働時間。 稼働時間の読み込み中または読み込みに失敗した場合、-1 で応答します。	●

4. サポート MIB トラップ (P185~P197)

(1) 4.1 サポートトラップおよび発行契機【訂正】

「表 4-1 サポートトラップおよび発行契機 (P186~P188)」を訂正します。

【訂正前】

表 4-1 サポートトラップおよび発行契機

項番	トラップの種類	意味	発行契機	実装 有無
20	ax2430sPowerSupply FailureTrap	電源が故障した。	<ul style="list-style-type: none"> ・実装された電源のうちひとつでも異常が発生した場合。 ・装置から電源を抜いた場合。 	●

【訂正後】

表 4-1 サポートトラップおよび発行契機

項番	トラップの種類	意味	発行契機	実装 有無
20	ax2430sPowerSupply FailureTrap	電源が故障した。	<ul style="list-style-type: none"> ・実装された電源のうちひとつでも異常が発生した場合。 	●

付録 (P199~P216)

(1) 付録 A.1 プライベート MIB 【追加】

「表 A-1 axsStats グループの MIB 名称とオブジェクト ID 値の対応 (P200~P201)」に axsToCpuQoS グループを追加します。[Ver. 11.7.A 以降]

【追加】

表 A-1 axsStats グループの MIB 名称とオブジェクト ID 値の対応

MIB 名称	オブジェクト ID
axsToCpuQoS	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11
axsToCpuQoSStatsTable	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.1
axsToCpuQoSStatsEntry	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.1.1
axsToCpuQoSStatsIndex	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.1.1.1
axsToCpuQoSStatsMaxQnum	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.1.1.2
axsToCpuQoSStatsLimitQlen	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.1.1.3
axsToCpuQoSStatsTotalOutFrames	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.1.1.4
axsToCpuQoSStatsTotalOutBytesHigh	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.1.1.5
axsToCpuQoSStatsTotalOutBytesLow	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.1.1.6
axsToCpuQoSStatsTotalDiscardFrames	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.1.1.7
axsToCpuQoSStatsQueueTable	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.2
axsToCpuQoSStatsQueueEntry	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.2.1
axsToCpuQoSStatsQueueIndex	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.2.1.1
axsToCpuQoSStatsQueueQueueIndex	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.2.1.2
axsToCpuQoSStatsQueueQueueQlen	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.2.1.3
axsToCpuQoSStatsQueueQueueMaxQlen	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.2.1.4
axsToCpuQoSStatsQueueDiscardFramesClass1	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.2.1.5
axsToCpuQoSStatsQueueDiscardFramesClass2	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.2.1.6
axsToCpuQoSStatsQueueDiscardFramesClass3	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.2.1.7
axsToCpuQoSStatsQueueDiscardFramesClass4	1.3.6.1.4.1.21839.2.2.1.1.6.11.2.1.8